

HD カラービデオ カメラ

ユーザーガイド
ソフトウェアバージョン 3.0

SRG-300SE/301SE/201SE

お買い上げいただきありがとうございます。



警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

このユーザーガイドには、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。
このユーザーガイドをよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、
いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次

はじめに

特長	4
このユーザーガイドの使いかた	5
システム構成例	6
ネットワーク経由でカメラを操作するとき	6
1 台のカメラをリモートコントローラーで操作するとき	7
複数台のカメラをリモートコントローラーで操作するとき	8
複数台のカメラを複数台のリモートコントローラーで操作するとき	9
意図せぬ第三者からのカメラへのアクセスを防ぐための注意事項	10
設定手順	10

ネットワーク経由での操作

Web ブラウザからカメラにアクセスする	11
ビューアーについて	11
カメラを操作する	13
メインメニュー	13
モニター画面	13
ActiveX viewer 操作パネル部	13
Plug-in free viewer コントロールバー	15
パン・チルト・ズームを操作する	16
コントロールパネルで操作する	16
プリセットポジションパネルを使って操作する	16
モニター画面を使って操作する	17
通信方式を切り替える	18

ネットワーク経由での設定

管理者設定メニューの基本操作	19
管理者設定メニューの設定のしかた	19
管理者設定メニューの構成	20
システム設定を行う — システムメニュー	20
情報タブ	20
日付／時刻タブ	20
設置タブ	21
初期化タブ	22
システムログタブ	23
アクセスログタブ	23
サービスタブ	23

カメラ映像の設定を行う — ビデオメニュー	23
画像タブ	23
ビデオコーデックタブ	25
スーパーインポーズタブ	26
デイ / ナイト ICR タブ	27

カメラの音声の設定を行う — オーディオメニュー ...	28
オーディオタブ	28

ネットワークを設定する — ネットワークメニュー ...	29
ネットワークタブ	29
QoS タブ	31

セキュリティ設定をする — セキュリティメニュー ...	32
管理者とユーザーについて	32
ユーザータブ	33
アクセス制限タブ	33
SSL タブ	34
CA 局の証明書をインストールするには	37
インストールした CA 局の証明書を削除するには	38
個人用の証明書をインポートするには	39
802.1X タブ	39
802.1X ネットワークのシステム構成	40
Referer チェックタブ	42

PTZF 操作を設定する — PTZF 操作メニュー	42
PTZF 操作タブ	42
プリセット位置タブ — パン・チルト・ズーム位置を記憶させる	43
シリアルタブ	44

配信に関する設定を行う — ストリーミングメニュー	45
ストリーミングタブ	45

リモートコントローラーを使っでの操作

準備	47
複数のカメラを操作する	48
パン・チルト・ズームを操作する	48
パン・チルトする	48
ズームする	49
カメラを調節する	49
ピントを合わせる	49
逆光を補正する	50
ホワイトバランスを調節する	50
カメラの状態を記憶させる — プリセット機能	50
カメラの状態を記憶させる	50

リモートコントローラーを使っでの 設定

メニュー画面の見かた	52
リモートコントローラーを使って操作する	52
メインメニュー	52
設定メニュー	52
操作ボタン表示部	53
EXPOSURE メニュー	54
WHITE BALANCE メニュー	55
PICTURE メニュー	55
PAN TILT ZOOM メニュー	56
SYSTEM メニュー	57
STATUS メニュー	58

その他

メッセージ一覧	59
故障かな?と思ったら	60
メニューの構成	61
プリセット項目	63
用語集	64
索引	66

はじめに

特長

- ・映像の IP 出力とベースバンド出力（3G-SDI 対応）の同時出力に対応。（音声は IP 出力のみ）
- ・ 1/2.8 型 Exmor CMOS を採用し高感度、高精細の HD 映像が得られます。
- ・ ワイドダイナミックレンジ機能の搭載により、明るい被写体と暗い被写体を同時に有している画面にて最適映像が可能となります。
- ・ ノイズリダクション機能により低照度時に見やすい画像の配信が可能。
- ・ JPEG/H.264 の 2 つの映像圧縮方式（ビデオコーデック）を使用。
- ・ 最大 3 コーデックの動作モードを選択可能。
- ・ 日付／時刻を画像にスーパーインポーズすることが可能。
- ・ 高速、広範囲駆動のパンチルト機能と画像反転機能により、天井への設置にも対応が可能となります。
- ・ 光学 30 倍＊、F1.6 の高倍率、明るいズームレンズを搭載しています。
- ・ カメラの位置を最大で 256 ポジション記憶できます。（うち 16 ポジション分についてはカメラ設定項目なども記憶可能）
- ・ 外部通信で業界標準である VISCA カメラプロトコルの RS-422 インターフェースを搭載。

＊ SRG-201SE は、光学 20 倍です。

補足

SRG-301SE/201SE は、中国向けに販売されているモデルです。

権利者の許諾を得ることなく、このソフトウェアおよびユーザーガイドの内容の全部または一部を複製すること、およびこのソフトウェアを賃貸に使用することは、著作権法上禁止されております。

© 2014 Sony Corporation

ソフトウェアを使用したことによるお客様の損害、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねます。

万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

このソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- ・ **HD** は、ソニー株式会社の商標です。
- ・ “Exmor” および **Exmor**_™ は、ソニー株式会社の商標です。
- ・ Microsoft、Windows および Internet Explorer、Microsoft DirectX は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Java Script は Sun Microsystems, Inc. の商標です。
- ・ Intel Core は、アメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーションの登録商標です。
- ・ Adobe および Adobe Reader、Adobe Flash は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。

その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中で ®、™ マークは明記しておりません。

このユーザーガイドの使いかた

このユーザーガイドは、本機をネットワーク経由でコンピュータから操作する方法および別売のリモートコントローラーから操作する方法を説明しています。

このユーザーガイドは、コンピュータの画面上に表示して読まれることを想定して書かれています。

ここではユーザーガイドをご活用いただくために知っておいていただきたい内容を記載しています。操作の前にお読みください。

関連ページへのジャンプ

コンピュータの画面上でご覧になっている場合、関連ページが表示されている部分をクリックすると、その説明のページへジャンプします。関連ページが簡単に検索できます。

ソフトウェアの画面例について

このユーザーガイドに記載されているソフトウェアの画面は、説明のためのサンプルです。実際の画面とは異なることがありますので、ご了承ください。

また、説明のための例として、SRG-300SE のカメラのイラストやメニュー画面を使用しています。

搭載されていない機能は表示されません。

ユーザーガイドのプリントアウトについて

このユーザーガイドをプリントする場合、お使いのシステムによっては、画面やイラストの細部までを再現できないことがありますので、ご了承ください。

リモートコントローラーについて

別売りアクセサリーの IP リモートコントローラー (RM-IP10) を使って操作や設定ができます。

このユーザーガイドでは、リモートコントローラーと省略して記載しています。

設置説明書（印刷物）について

付属の設置説明書には、カメラ本体の各部の名称や基本的な設置・接続のしかたが記載されています。操作の前に必ずお読みください。

システム構成例

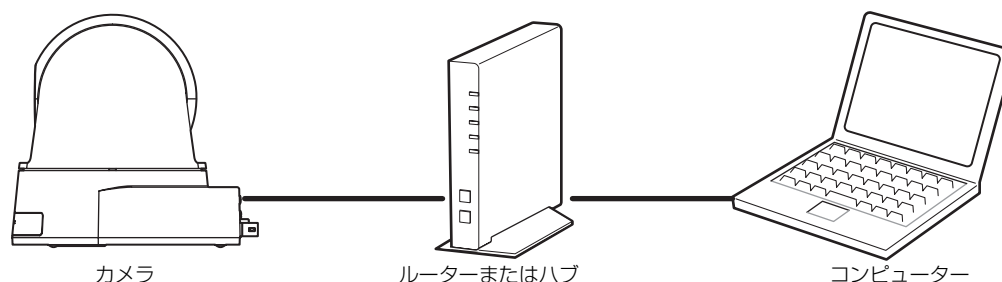
本機は、別売機器との組み合わせにより、さまざまなシステムを構成できます。ここでは、代表的なシステム例をあげて、システムの構成に必要な機器とそのシステムでどんなことができるかを説明します。

ネットワーク経由でカメラを操作するとき

このシステムでできること

1 台のカメラの映像、音声を複数のユーザーがネットワーク経由で同時に視聴できます。

システム構成図



ネットワーク経由での操作や設定は、「ネットワーク経由での操作」（11 ページ）または、「ネットワーク経由での設定」（19 ページ）をご覧ください。

ご注意

- ・ 視聴できる最大のユーザー数は、映像と音声の設定によって変わります。
- ・ 同時接続数が増えた場合、フレームレートが低下することもあります。

必要なコンピューターの動作環境

カメラの映像を見たり、制御したりするコンピューターには、次の動作環境が必要です。
(2017 年 8 月現在)

OS

Microsoft Windows 7（32bit 版、64bit 版）、
Windows 8.1 Pro（32bit 版、64bit 版）*、
Windows 10 Pro（32bit 版、64bit 版）*

動作検証済みエディション：

Windows 7：Ultimate、Professional

Windows 8.1：Pro

Windows 10：Pro

Microsoft DirectX 9.0c 以上

Web ブラウザ

Windows Internet Explorer Ver. 11.0*

Firefox Ver. 54.0

Google Chrome Ver. 60.0

CPU

Intel Core i7、2.8 GHz 以上

または、Intel HD Graphics 内蔵の Intel Core i3 / Intel Core i5 / Intel Core i7

メモリー

2 GB 以上

ディスプレイ

1600 × 1200 画素以上

* Windows 10 をお使いの場合は、タブレットモードはオフにしてください。

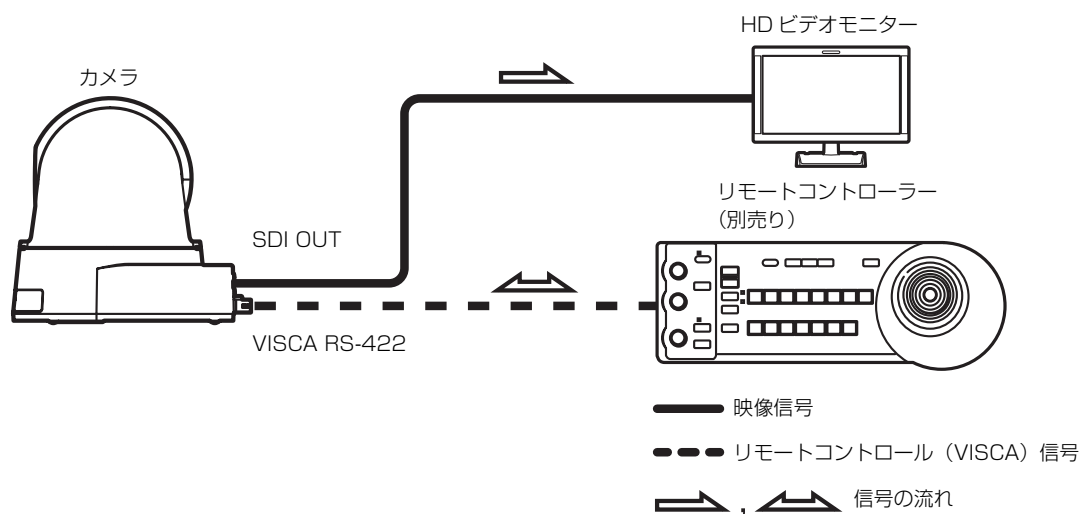
* Windows 8.1 をお使いの場合は、デスクトップユーザーインターフェース（デスクトップ UI）版の Internet Explorer をご利用ください。

1 台のカメラをリモートコントローラーで操作するとき

このシステムでできること

リモートコントローラーのジョイスティックでパン・チルト・ズーム操作ができます。また、ボタン操作でプリセット動作などができます。

システム構成図



ご注意

- ・ VISCA 通信は RS-422 接続のみ可能です。
- ・ 通信速度はカメラとリモートコントローラーで合わせる必要があります。
- ・ 通信速度やビデオフォーマットの設定変更についてはネットワーク経由でブラウザ画面より行う必要があります。
※ SDI OUT に表示されるメニュー画面から設定変更はできません。

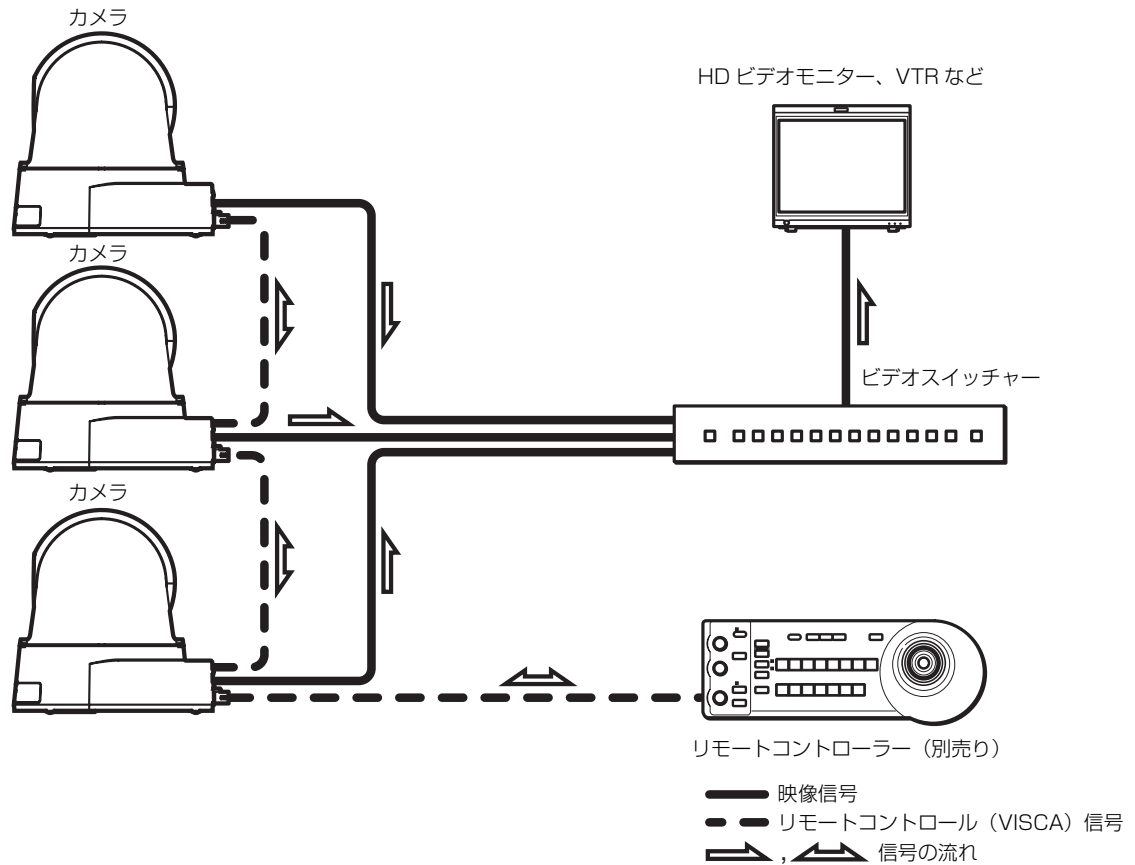
リモートコントローラーを使つての操作や設定は、「リモートコントローラーを使つての操作」（47 ページ）または、「リモートコントローラーを使つての設定」（52 ページ）をご覧ください。

複数台のカメラをリモートコントローラーで操作するとき

このシステムでできること

- ・ 最大7台のカメラを別売りのリモートコントローラーでデージーチェーン接続し操作できます。

システム構成図



ご注意

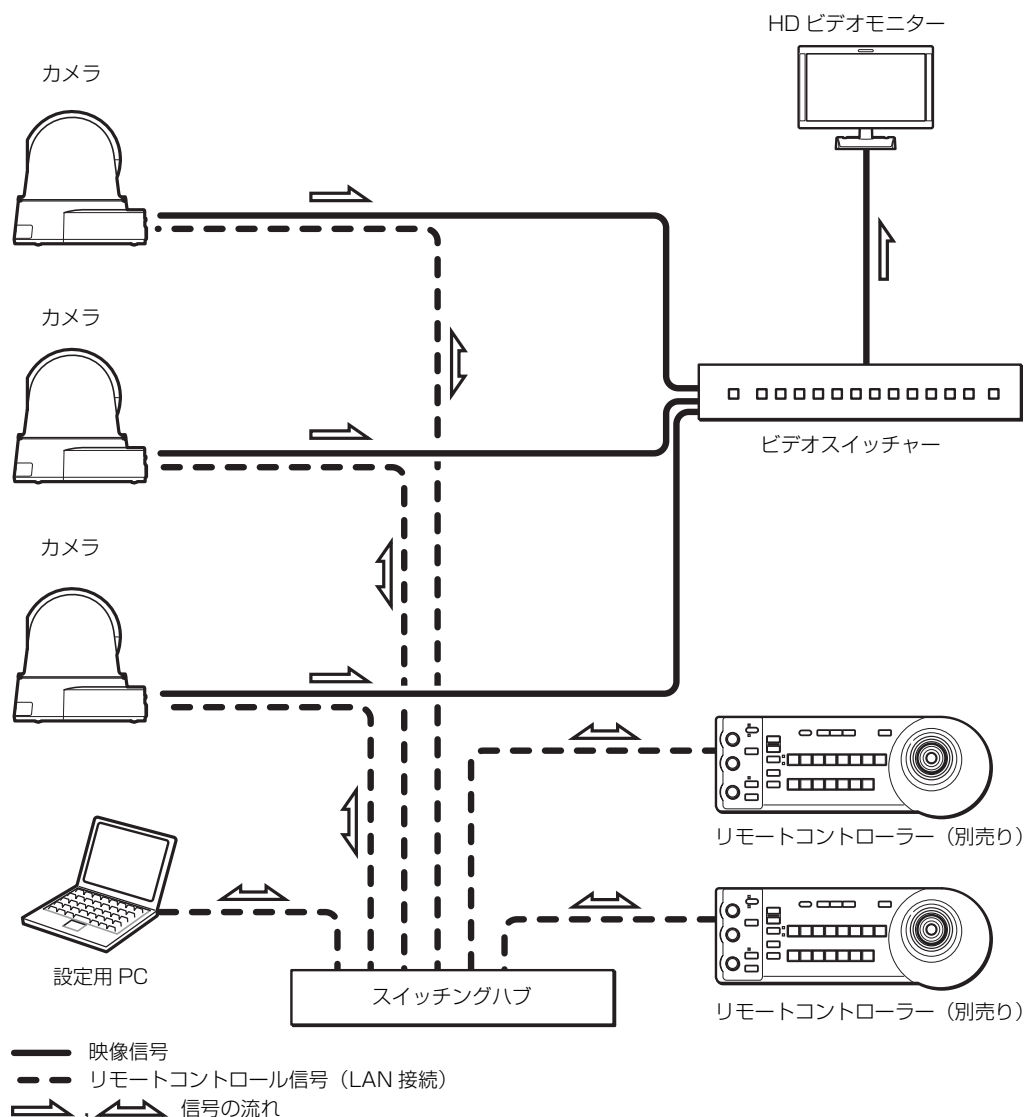
- ・ VISCA 通信は RS-422 接続のみ可能です。
 - ・ 通信速度はカメラとリモートコントローラーで合わせる必要があります。
 - ・ 通信速度やビデオフォーマットの設定変更についてはネットワーク経由でブラウザ画面より行う必要があります。
- ※ SDI OUT に表示されるメニュー画面から設定変更はできません。

複数台のカメラを複数台のリモートコントローラーで操作するとき

このシステムでできること

- ・ 最大 112 台のカメラ、5 台のリモートコントローラーが操作できます。
- ・ ジョイスティックでパン・チルト・ズーム操作ができます。

システム構成図



ご注意

- ・ LAN 接続時は RS-422 接続は使用できません。
- ・ LAN 接続でコントロール接続する場合はカテゴリ 5 以上、シールドツイストペアのネットワークケーブルをご使用ください。

意図せぬ第三者からのカメラへのアクセスを防ぐための注意事項

使用環境によってはネットワーク上の意図せぬ第三者からカメラにアクセスされる可能性があります。セキュリティの面から、カメラ管理者のユーザー名・パスワードをデフォルト設定値から変更して設定することを強く推奨します。意図せぬ第三者からアクセスされた場合、視聴を妨げる操作・設定がおこなわれる等のリスクがあります。

例としてネットワーク機器が管理者に無許可でネットワークに接続されている、あるいは接続することができるネットワーク環境や、ネットワークに接続された PC 等のネットワーク機器が許可なく使用可能な環境では、カメラに不正なアクセスをされる可能性があります。こうした環境への接続は、お客様の責任において行われるものとします。また、カメラへの不正なアクセスを防ぐため、以下の設定手順で設定しカメラを使用してください。設定作業中または設定作業後のブラウザで他のサイトを閲覧しないでください。ブラウザに、カメラにログインした状態が残りますので、意図しない第三者の使用や悪意のあるプログラムの実行を防ぐために、設定作業が完了したら必ずブラウザを閉じてください。

設定手順

- 1 SNC toolbox を用いカメラのネットワークアドレスの設定をしてください。
SNC toolbox の使い方はアプリケーションガイドをご覧ください。
この手順以後カメラのネットワーク設定変更は SNC toolbox を使用しないでください。カメラを検索するだけであれば問題ありません。
- 2 Web ブラウザを起動しカメラ設定画面から SSL 機能を「有効」に設定します。
詳細は管理者設定メニューの「セキュリティ設定をする — セキュリティメニュー」（32 ページ）をご覧ください。
- 3 Web ブラウザを再起動しカメラに再度アクセスします。
- 4 カメラ管理者のユーザー名・パスワードを設定します。
詳細は管理者設定メニューの「セキュリティ設定をする — セキュリティメニュー」（32 ページ）をご覧ください。

- 5 Referer チェックのチェックボックスにチェックを入れます。
詳細は管理者設定メニューの「セキュリティ設定をする — セキュリティメニュー」（32 ページ）をご覧ください。

以後 SSL 接続を使用してカメラをお使いください。

補足

SNC toolbox は、Sony Network Camera toolbox の略です。

ネットワーク経由での操作

この章では、Web ブラウザを使ってカメラ映像をモニターする方法を説明します。

カメラの設定は管理者が行います。設定のしかたは「ネットワーク経由での設定」（19 ページ）をご覧ください。

リモートコントローラーを使ってパン、チルト、ズームなどを操作する場合は、「リモートコントローラーを使つての操作」（47 ページ）をご覧ください。

ご注意

- ・ ネットワーク経由からの操作、およびリモートコントローラーを使つての操作は同時に行わないでください。
- ・ 電源を入れると、およそ2分後にカメラは自動的にプリセット1に記憶されたパン・チルト位置とカメラ設定になります（パン・チルトリセット）。起動時に反映される設定項目については、「プリセット項目」（63 ページ）をご覧ください。
- ・ カメラ設定をプリセット1に登録しない場合、電源を入れるとカメラ設定は保持されず初期設定状態にリセットされます。

Web ブラウザからカメラにアクセスする

Web ブラウザからカメラにアクセスできることを確認します。

- 1 カメラに IP アドレスを割り当てる。
設定のしかたは設置説明書「本機に IP アドレスを割り当てる」をご覧ください。工場出荷時は DHCP に設定されています。
- 2 コンピューターで Web ブラウザを起動し、カメラの IP アドレスをアドレス欄に入力する。

アドレス欄

ライブビューアー画面が表示されます。

画面例



ご注意

- ・ 映像と音声の最大閲覧者数は、10 人ですが、カメラの配信能力を超えると、10 以下でも新しくカメラにアクセスできない場合があります。
- ・ 同時接続数が増えた場合、フレームレートが低下することもあります。

ビューアーについて

使用する Web ブラウザの種類により次のビューアーが使用できます。

ActiveX viewer

Internet Explorer で映像を表示するビューアーです。カメラの映像が [JPEG]、[H.264]、いずれの場合にも映像をモニターできます。

初めてカメラのビューアーを表示するときは

Internet Explorer を使って初めて本機にアクセスすると [Internet Explorer - セキュリティの警告] が表示されます。[はい] もしくは「インストール」をクリックして ActiveX コントロールをインストールしてください。この ActiveX コントロールを使用するとビューアーのすべての機能が使用できます。

Plug-in free viewer

Internet Explorer 以外のブラウザで映像を表示するビューアーです。

ご注意

- ・インターネットオプションのローカルエリアネットワーク（LAN）の設定を自動構成にすると、画像が表示されない場合があります。この場合は自動構成を使用せずに手動でプロキシサーバーを設定してください。プロキシサーバーの設定については、ネットワーク管理者にご相談ください。
- ・ActiveX コントロールのインストール時は「管理者権限」でコンピューターにログインしておく必要があります。

補足

本ソフトウェアの各ページは、Internet Explorer の表示文字サイズ [中] で最適に表示されます。

ビューアー画面を正しく表示させるには

ビューアー画面を正しく動作させるためには、以下の手順で Internet Explorer のセキュリティレベルを [中] 以下に設定してください。

- 1 Internet Explorer のメニューバーから [ツール] — [インターネットオプション] — [セキュリティ] タブの順に選択する。
- 2 [インターネット] アイコン（本機をインターネット環境で使っているとき）、または [イントラネット] アイコン（本機をイントラネット環境で使っているとき）をクリックする。
- 3 レベルバーを操作して [中] 以下にする。（レベルバーが表示されていない場合は、[既定のレベル] ボタンをクリックしてからレベルバーを操作してください。）

コンピューターでウイルス対策ソフトウェアなどをお使いの場合

- ・コンピューターでウイルス対策ソフトウェア、セキュリティソフトウェア、パーソナルファイアウォール、ポップアップブロッカーなどをお使いの場合、画像表示のフレームレートが低下するなど、カメラのパフォーマンスが低下する場合があります。
- ・本機にアクセスしたときに表示される Web ページは JavaScript を使用しています。ご使用になるコンピューターで上記のウイルス対策ソフトウェアなどをお使いの場合には、Web ページが正しく表示されない場合があります。

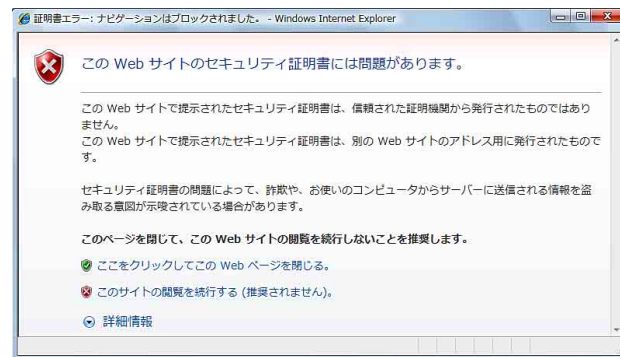
SSL 機能をご利用の場合

Internet Explorer をご利用の場合

カメラの IP アドレスを入力したとき、カメラに設定されている証明書の状態によって「証明書エラー」が表示されることがあります。

この場合は [このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）。] をクリックして続行します。

ライブビューアー画面（SSL 通信時）が表示されます。



[同時に HTTP 接続を許可]（35 ページ）をチェックしている場合

HTTP および SSL 接続それぞれを使い分けてアクセスしたいときは、ブラウザのアドレス欄に次のように入力してください。

HTTP 接続を行う場合

<http://192.168.0.100/index.html?lang=ja>

SSL 接続を行う場合

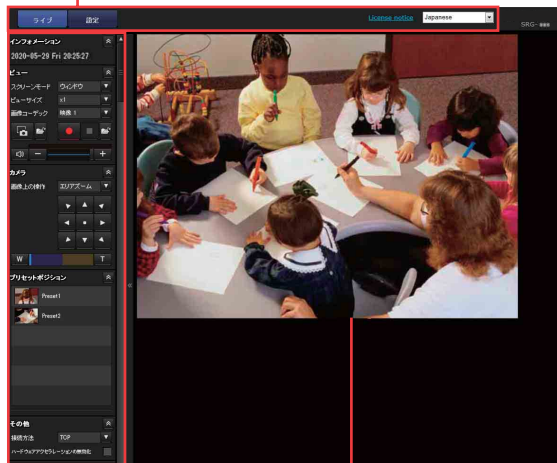
<https://192.168.0.100/index.html?lang=ja>

カメラを操作する

ここでは、ライブビューアーの各部の名前と機能を説明します。詳しい説明は、それぞれの機能の説明ページをご覧ください。

ActiveX viewer の場合のライブビューアー

メインメニュー



操作パネル部

モニター画面

メインメニュー

ライブ

ActiveX viewer または Plug-in free viewer によるライブビューアー画面を表示します。

設定

管理者用の管理者設定メニューを表示します。(19 ページ)

この操作は、管理者としてログインする必要があります。

License notice

ソフトウェアの使用許諾書などを表示します。

言語

ビューアーの表示に使用する言語を設定します。

モニター画面

カメラの映像を表示します。マウスを使いパン・チルト・ズーム操作をすることができます。

ActiveX viewer 操作パネル部

各パネルは、ドラッグしてモニター画面上に配置できます。

操作パネル部に戻りたいときは、ドラッグして操作パネル部に配置してください。

▲ をクリックすると詳細設定画面が非表示になります。もう一度クリックすると表示されます。

インフォメーションパネル



日付と時刻を確認することができます。

ビューパネル



スクリーンモードの変更、ビューサイズの変更、画像コーデックの変更、フレームレートの変更、静止画保存の実行、動画保存の実行／停止、音声出力ボリュームの調整ができます。

スクリーンモード

ライブビューアーの表示モードを [ウインドウ] または [フルスクリーン] から選択します。

ビューサイズ (画像表示サイズ)

モニター画面の画像表示サイズを選択します。

[× 1/4] を選択すると、4 分の 1 の画像サイズで表示されます。

[× 1/2] を選択すると、2 分の 1 の画像サイズで表示されます。

[× 1] を選択すると、ビデオメニューの [画像サイズ] (25 ページ) で選択した画像サイズで表示されます。

[フル] を選択すると、表示画像サイズに合わせて表示されます。

[フィット] を選択すると、表示画像サイズに合わせてアスペクト比を固定し表示されます。

画像コーデック

モニター画面に表示する画像の画像コーデック設定を [映像 1]、[映像 2]、[映像 3] から選択します。

フレームレート

画像コーデック設定が JPEG のときのみ表示されます。
配信する画像のフレームレートを選択します。

キャプチャー

カメラの静止画像をキャプチャーし、コンピュータに保存するときクリックします。をクリックすると静止画の保存先フォルダーが開きます。

動画保存の実行／停止

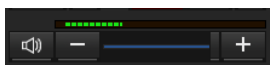
動画保存の実行および停止をします。をクリックすると動画の保存先フォルダーが開きます。

ご注意

Windows のコントロールパネルにあるインターネットオプションのセキュリティプロパティで、保護モードが有効になっているときは、静止画像のキャプチャーおよび動画の保存はできません。

音量

オーディオメニューのオーディオタブにある [有効] にチェックを入れる则表示されます。



入力音声のレベルメーターが表示されます。また、スライダーで、音声出力の音量を調整します。

をクリックするとボタンがに変わり、スピーカーからの音声出力が止まります。もう一度音声を出力するにはをクリックします。

カメラコントロールパネル



現在表示されているモニター画像に対して、コントロールパネルでカメラのパン・チルト・ホーム位置への移動やズーム、フォーカスの操作を行うことができます。
(16 ページ)

画像上の操作

[オフ]、[エリアズーム]、[ベクトルドラッグ] から画像上の操作方法を選択します。

パン・チルト操作

移動したい方向の矢印をクリックします。矢印を押し続けると、連続的にカメラの向きが移動します。

をクリックすると、ホーム位置に戻ります。ホーム位置に戻ると、パン、チルト、ズーム、フォーカスの位置が工場出荷時の状態になります。

ズーム操作

をクリックするとズームアウトを、をクリックするとズームインをします。ボタンを押している間ズーム動作が続きます。



光学ズーム可能領域を示します。

デジタルズーム可能領域を示します。

ご注意

ズーム位置によっては画面の四隅が暗くなる場合があります。これは本機の構造による症状で、故障ではありません。

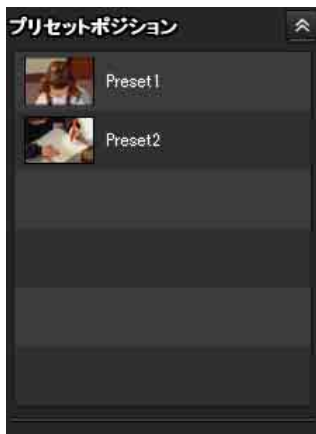
フォーカス操作

PTZF 操作メニューで [フォーカスモード] を [手動] に設定すると表示されます。(43 ページ)

をクリックすると近くのものにフォーカス（焦点）を合わせます。をクリックすると遠くのものにフォーカスを合わせます。

をクリックすると最適なフォーカス位置に設定されます。

プリセットポジションパネル



カメラのプリセット位置が登録されているときのみ表示されます。

登録されているプリセット位置が表示されます。

プリセット位置の登録時にサムネイルを選択しておく、サムネイル付きで表示されます。

リストからプリセット位置名を選択すると、プリセット位置メニューで記憶させた位置にカメラを移動できます。

その他パネル



接続方法

映像・音声データの通信モードを TCP、ユニキャスト、マルチキャストから選択します。詳細は「通信方式を切り替える」(18 ページ)をご覧ください。

【ハードウェアアクセラレーションの無効化】

映像の再生で問題が発生する場合は、チェックを入れて下さい。

ご注意

以下の項目は自動的に設定が保存されます。環境や設定の保存状況で正しく動作しなくなる場合があります。スクリーンモード、ビューサイズ、フレームレート、音量、音声出力状態、カメラコントロールパネルの画像上の操作、接続方法、ハードウェアアクセラレーションの無効化

その場合、以下のファイルを消去して初期状態に戻して下さい。

例：お使いのメインドライブが C ドライブの場合

C:\Users\<ユーザー名>\AppData\Roaming\Sony\SNCActiveXViewer\SNCActiveXViewer_configuration.ini

Plug-in free viewer コントロールバー

Plug-in free viewer の場合のライブビューアー画面例



コントロールバー モニター画面

コントロールバー

以下の操作ボタンを利用できます。



▼ 設定

画像サイズ、フレームレート、PTZ の操作モード、画像コーデックを設定できます。

▶ ストリーム開始ボタン

ストリームを開始します。(ストリーム停止中に表示されます。)

⏸ ストリーム停止ボタン

ストリームを停止します。(ストリーム再生中に表示されます。)

P プリセット

プリセット位置を選択すると、記憶させたプリセット位置にカメラを移動します。
(カメラのプリセット位置が登録されているときのみ表示されます。)

📷 静止画保存ボタン

カメラの静止画像をキャプチャーし、コンピュータに保存します。

ご注意

Plug-in free viewer 使用時には音声は出力されません。

パン・チルト・ズームを操作する

カメラのパン・チルト・ズームを操作するには「コントロールパネルで操作する」、「プリセットポジションパネルを使って操作する」、「モニター画面を使って操作する」方法があります。

「モニター画面を使って操作する」には [エリアズーム]、[ベクトルドラッグ]、[PTZ コントロールバー] の3種類のモードがあります。

カメラの操作モードはライブビューアーの種類によって利用できる機能が異なります。それぞれ利用できる機能は以下のとおりです。

	ActiveX viewer	Plug-in free viewer		
		JPEG	JPEG/Flash	ActiveX
コントロールパネルからの操作	○	×	×	×
エリアズーム	○	○	○	○
ベクトルドラッグ	○	○	○	○
PTZ コントロールバー	×	○	○	×

コントロールパネルで操作する

現在表示されているモニター画像に対して、コントロールパネルでカメラのパン・チルト・ホーム位置への移動やズーム、フォーカスの操作を行うことができます。



画像上の操作

[オフ]、[エリアズーム]、[ベクトルドラッグ] から画像上の操作方法を選択します。

パン・チルト操作

移動したい方向の矢印をクリックします。矢印を押し続けると連続的にカメラの向きが移動します。

■をクリックすると、ホーム位置に戻ります。ホーム位置に戻ると、パン、チルト、ズーム、フォーカスの位置が工場出荷時の状態になります。

ズーム操作

W をクリックするとズームアウトを、T をクリックするとズームインをします。ボタンを押している間ズーム動作が続きます。



光学ズーム可能領域を示します。

デジタルズーム可能領域を示します。

ご注意

ズーム位置によっては画面の四隅が暗くなる場合があります。これは本機の構造による症状で、故障ではありません。

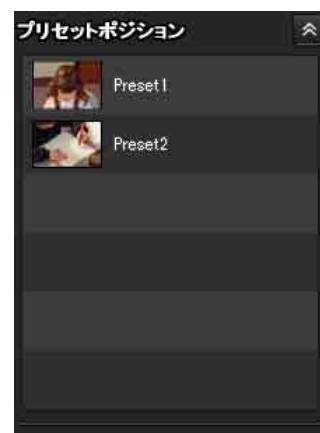
フォーカス操作

PTZF 操作メニューで [フォーカスモード] を [手動] に設定すると表示されます。(43 ページ)

人 をクリックすると近くのものにフォーカス（焦点）を合わせます。▲ をクリックすると遠くのものにフォーカスを合わせます。

One Push Focus をクリックすると最適なフォーカス位置に設定されます。

プリセットポジションパネルを使って操作する



事前に登録したプリセット位置がプリセットポジションパネルに表示されます。プリセット位置名を選択するとカメラを移動できます。

プリセット位置の登録は、PTZF 操作メニューにあるプリセット位置タブ (43 ページ) から行ってください。

モニター画面を使って操作する

画像上でのパン・チルト・ズーム操作には、マウス操作によるエリアズームモードとベクトルドラッグモード、コントロールバーをクリックするPTZコントロールバーがあります。

・エリアズームモード

画像をクリックすると、クリックした位置が画像の中央になるようにカメラの向きが移動します。

また、画像上の一部をマウスでドラッグして枠で囲むと、囲まれたエリアが画面全体に表示されるようにカメラの向きが移動し、同時にズームインします。マウスホイールを使ってズーム操作をすることができます。

・ベクトルドラッグモード

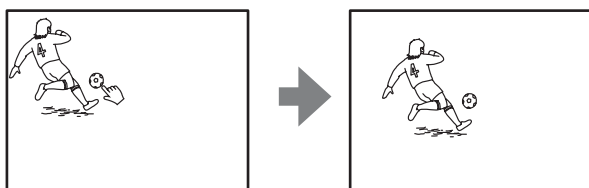
ドラッグした方向にカメラの向きが移動します。また、ドラッグの長さによりスピードが決まります。ドラッグ後マウスのボタンを離すと、カメラのパン・チルト動作が止まります。カメラコントロールパネルを使ってカメラの向きを変えることもできます。マウスホイールを使ってズーム操作をすることができます。

・PTZ コントロールバー

画像上に表示されるコントロールバーをクリックすることで操作することができます。

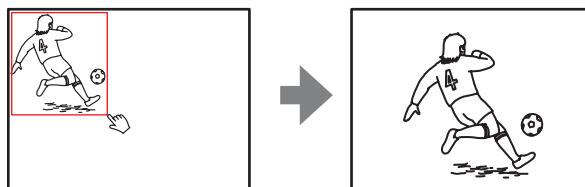
画面をクリックしてパン・チルトを操作する（エリアズームモード）

画像上でマウスをクリックすると、クリックした位置が画像の中央になるようにカメラの向きが移動します。



拡大したい範囲を指定してパン・チルト・ズームを操作する（エリアズームモード）

画像上でマウスの左ボタンを押し続けて対角線方向にドラッグし、拡大したい部分を赤い枠で囲みます。枠で囲まれた部分が画面中央に表示されるように、カメラの向きが移動し、同時にズームインします。

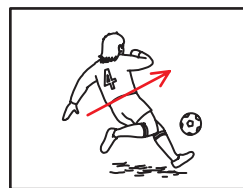


ご注意

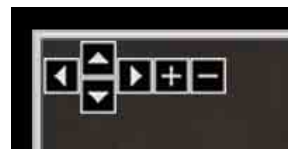
- ・ PTZF 操作メニューの「デジタルズーム」で「オン」を選択している場合、範囲を指定してズームインすると、光学ズームのT端で、いったん、ズームイン動作が停止します。さらにデジタルズームを使ってズームインしたいときは、もう一度範囲を指定してください。
- ・ 範囲を指定してズームインすると、選択した範囲が画像の中央からずれたり、外れて表示される場合があります。このときは、中央に表示したい場所をクリックするか、カメラコントロールパネルの矢印ボタンをクリックしてください。

画面をドラッグしてパン・チルトを操作する（ベクトルドラッグモード）

画像上で始点をクリックして終点までドラッグすると、始点から終点に向かって矢印の方向にカメラがパン・チルト動作をします。動作速度は、矢印の長さで決まります。マウスのボタンを離すと、カメラのパン・チルト動作が止まります。



画像に表示されるコントロールバーでパン・チルト・ズームを操作する（PTZ コントロールバー）



パン・チルト操作

移動したい方向の矢印をクリックします。矢印を押し続けると連続的にカメラの向きが移動します。

ズーム操作

「**-**」をクリックするとズームアウトを「**+**」をクリックするとズームインします。ボタンを押している間ズーム操作が続きます。

通信方式を切り替える

映像／音声データの通信方式を切り替えることができます。

ライブビューアーに ActiveX viewer を使用している場合のみ操作できます。

画像のビデオコーデックを [H.264] に設定している場合のみ [ユニキャスト]、[マルチキャスト] の選択ができます。

ご注意

お使いのコンピュータでパーソナルファイアウォールソフトウェアや、アンチウイルスソフトウェアなどを使用している場合、この機能が正しく動作しないことがあります。このような場合は、該当のソフトウェアを無効にするか、または TCP モードでお使いください。

- 1 その他パネルの [接続方法] リストボックスから、[TCP]、[ユニキャスト]、[マルチキャスト] を選択する。



[TCP]：通常はこれを選択します。

[TCP] が選択されている場合には、映像／音声用の通信に HTTP 通信が採用されます。HTTP は通常の Web ページの閲覧に使用されているプロトコルです。Web 閲覧が可能な環境であれば、TCP ポートを選択すれば、映像／音声を見たり聞いたりできます。

[ユニキャスト]：[ユニキャスト] が選択されている場合には、映像／音声用の通信に RTP (Real-time Transport Protocol) 通信が採用されます。RTP は映像／音声データを流すことを目的としたプロトコルで、TCP (HTTP) と比較してスムーズな映像／音声の再生が可能です。ただし、カメラとコンピュータの間にファイアウォールが設置されている場合やネットワーク環境により、[ユニキャスト] を選択すると映像／音声为正しく再生されない場合があります。正しく再生できない場合には [TCP] を選択してください。

[マルチキャスト]：ストリーミングメニューにあるストリーミングタブの [マルチキャスト配信機能] の [有効] が選択されているとき、選択することができます。通信ポートとして [マルチキャスト] が選択されている場合には、映像／音声用の通信には、RTP (Real-time Transport Protocol) 通信が採用され、加えて UDP のマルチキャスト技術が採用されま

す。これを選択することによって、カメラのネットワーク配信負荷を軽減することが可能です。ただし、カメラとコンピュータ間にマルチキャストに対応していないルーターが設置されていたり、ファイアウォールが設置されていたりする場合には映像／音声为正しく再生されない場合があります。正しく再生できない場合には、[TCP] または [ユニキャスト] を選択してください。

ご注意

- ・プロキシサーバーを経由して接続しているとき、[ユニキャスト] または、[マルチキャスト] は選択できません。
- ・接続方法項目は自動的に設定が保存されます。TCP 以外の設定で保存した場合、ネットワーク環境によっては ActiveX viewer が正しく動作しなくなる場合があります。その場合、以下のファイルを消去して初期状態に戻して下さい。

例：お使いのメインドライブが C ドライブの場合
C:\Users\<ユーザー名>\AppData\Roaming\Sony\SNCActiveXViewer\SNCActiveXViewer_configuration.ini

ネットワーク経由での設定

この章では、管理者によるカメラの機能の設定について説明します。

カメラの画像をモニターする方法は、「ネットワーク経由での操作」(11 ページ) をご覧ください。

リモートコントローラーを使ってカメラの設定をする場合は、「リモートコントローラーを使っての設定」(52 ページ) をご覧ください。

この章では、はじめに管理者設定メニューの設定の際の基本操作を説明し、その後、メニューの設定項目をひとつずつ説明します。

設定項目の表示について

本機の設定メニューは、現在設定できる項目のみが濃く表示されます。薄く（グレイアウト）表示されている項目は設定できません。

搭載されていない機能は表示されません。

管理者設定メニューの基本操作

管理者設定メニューでは、それぞれのユーザーの使用状態に合わせて本機のすべての機能を細かく設定することができます。

ビューアー画面の「設定」をクリックすると管理者設定メニューが表示されます。

管理者設定メニューの設定のしかた

- 1 カメラにアクセスし、ビューアー画面を表示する。
アクセスのしかたは、「Web ブラウザからカメラにアクセスする」(11 ページ) をご覧ください。
- 2 メインメニューの「設定」をクリックする。
認証ダイアログが表示されます。管理者のユーザー名とパスワードを入力すると、管理者設定メニューが表示されます。
管理者のユーザー名とパスワードは工場出荷時には「admin」が設定されています。
セキュリティを確保するため、ご使用の前に必ずパスワードを工場出荷時の設定から変更してください。

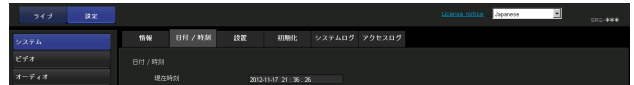
- 3 管理者設定メニューの左側のメニュー名（例：システム）をクリックする。
クリックしたメニューが表示されます。

例：「システム」メニュー



- 4 メニュー上部のタブを選択し、タブ内の各項目の設定を行う。

例：「システム」メニューの「日付／時刻」タブ



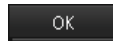
各メニューのタブと設定項目について詳しくは、20 ページをご覧ください。

- 5 設定が終わったら、[OK] をクリックする。
設定した内容が有効になります。

設定した内容を無効にして元の状態に戻すときは、[Cancel] をクリックします。

各メニューの共通ボタン

各メニューのタブ内には、必要に応じて以下の共通ボタンが表示されます。



各タブ内の設定内容を有効にするとき、クリックします。
このボタンをクリックするまで、設定内容はカメラに反映されません。



設定した内容を無効にして、元の状態に戻すときクリックします。

メニュー全般についてのご注意

- ・ユーザー名など、コンピューターから入力する文字に、半角カタカナは使用できません。
- ・メニューで設定を変更し、すぐに電源を切る場合は、2 分以上経過してからカメラの電源を切ってください。すぐに電源を切ると、変更した設定内容が正常に保存されない場合があります。
- ・ライブビューアーで閲覧中にカメラの設定を変更しても反映されない項目があります。変更した設定内容を既に開いているライブビューアーに反映させるには、Web ブラウザの「更新」をクリックしてください。

管理者設定メニューの構成

システム

システムメニューを表示します。(「システム設定を行う — システムメニュー」20 ページ)

ビデオ

カメラの映像に関する設定を行うビデオメニューを表示します。(「カメラ映像の設定を行う — ビデオメニュー」23 ページ)

オーディオ

カメラの音声に関する設定を行うオーディオメニューを表示します。(「カメラの音声の設定を行う — オーディオメニュー」28 ページ)

ネットワーク

ネットワーク接続のための設定を行うネットワークメニューを表示します。(「ネットワークを設定する — ネットワークメニュー」29 ページ)

セキュリティ

ログインユーザーや、接続を許可するコンピューターを指定するなどの設定を行うセキュリティメニューを表示します。(「セキュリティ設定をする — セキュリティメニュー」32 ページ)

PTZF 操作

パン、チルト、ズーム、フォーカス操作や、シリアル通信の設定を行う PTZF メニューを表示します。(「PTZF 操作を設定する — PTZF 操作メニュー」42 ページ)

ストリーミング

配信に関する設定を行うストリーミングメニューを表示します。(「配信に関する設定を行う — ストリーミングメニュー」45 ページ)

システム設定を行う — システムメニュー

管理者設定メニューの **システム** をクリックすると、システムメニューが表示されます。

このメニューでは本機の基本設定を行います。

システムメニューは [情報]、[日付／時刻]、[設置]、[初期化]、[システムログ]、[アクセスログ] のタブで構成されます。

情報タブ

情報	
モデル名	***
シリアル番号	2014
ソフトウェアバージョン	***

モデル名

カメラのモデル名が表示されます。

シリアル番号

カメラのシリアル番号が表示されます。

ソフトウェアバージョン

カメラのソフトウェアのバージョンが表示されます。

日付／時刻タブ

日付 / 時刻	
現在時刻	2012-08-28 19:31:37
コンピューターの現在時刻	2012-09-13 15:15:56
日付 / 時刻フォーマット	年 - 月 - 日 時 : 分 : 秒 ▼
時間設定	変更なし ▼
タイムゾーン選択	(GMT -5:00) Eastern Time (US & Canada) ▼
自動的に夏時間の調整をする	☒

現在時刻

カメラに設定されている日付／時刻を表示します。

ご注意

お買い上げ時、時刻の設定が合っていない場合があります。必ずご確認ください。

コンピューターの現在時刻

使用しているコンピューターの日付／時刻を表示します。

日付／時刻フォーマット

ビューアーに表示する日付／時刻の書式を各リストボックスから選択します。

[年一月一日 時：分：秒]、[月一日一年 時：分：秒]、
[日一月一年 時：分：秒] から選択できます。

時間設定

日付／時刻の設定方法を選択します。

[変更なし]：カメラの日付／時刻を設定しない場合に選択します。

[PC 同期]：カメラの日付／時刻をコンピューターの日付／時刻と合わせるときに選択します。

[手動設定]：カメラの日付／時刻を手動設定するときを選択します。
各リストボックスから、年、月、日、時、分、秒を選択します。

[NTP 同期]：カメラの日付／時刻を NTP (Network Time Protocol) サーバーと呼ばれる時刻サーバーと同期させる場合に選択します。
[NTP 同期] を選択した場合は、NTP サーバーを設定してください。

NTP サーバー

入力された NTP サーバーアドレスに対して同期を行います。

タイムゾーン選択

カメラの設置してある地域に合わせ、グリニッジ標準時刻との時差を設定します。

リストボックスからカメラを設置してある地域を選択します。

マニュアルタイムゾーン

タイムゾーン選択で [手動] を選ぶと、リストボックスにない任意のタイムゾーンを設定することができます。
入力のフォーマットは IEEE 1003.1 section 8.3 に準じています。

フォーマット：

stdoffset[dst[offset][.start[/time].end[/time]]]

std：3 ～ 100 文字の文字列

offset：時差 (+- 表記)

dst：サマータイムの名称

offset：サマータイムのオフセット、省略時は 1 時間

start：サマータイムの開始日時

end：サマータイムの終了日時

[] は省略可能を意味します。

例：

(UTC-06:00) 中部標準時 (アメリカおよびカナダ) の場合
CentralStandardTime6DaylightTime1,M3.2.0,M11.1.0

Timezone の名称が CentralStandardTime、時差が 6 時間、サマータイムの名称が DaylightTime、時差からのサマータイムオフセットが 1 時間、3 月の 2 週目の日曜日から 11 月の 1 週目の日曜日までがサマータイムであることを示します。

自動的に夏時間の調整をする

この項目にチェックすると、選択したタイムゾーンの夏時間に合わせて自動的に時刻の修正が行われます。

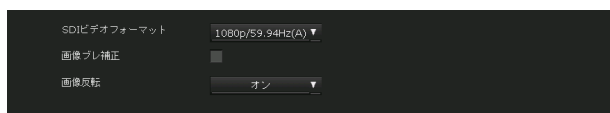
ご注意

[タイムゾーン選択] で選択したタイムゾーンとコンピューターのタイムゾーンが異なる場合は、タイムゾーンの差を反映した日付／時刻がカメラに設定されます。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」(19 ページ) をご覧ください。

設定タブ



設置に関連する設定を行います。

SDI ビデオフォーマット

SDI 端子から出力する映像を設定できます。

	ビデオフォーマット
59.94 Hz 系	1920 × 1080p/59.94 (A)
	1920 × 1080p/59.94 (B)
	1920 × 1080i/59.94
	1920 × 1080p/29.97
	1280 × 720p/59.94
	1280 × 720p/29.97
50 Hz 系	1920 × 1080p/50 (A)
	1920 × 1080p/50 (B)
	1920 × 1080i/50
	1920 × 1080p/25
	1280 × 720p/50
	1280 × 720p/25

ご注意

- ビデオフォーマットによって、IP 画像で選択できるフレームレートや画像サイズなどが異なります。

- ・ビデオフォーマット変更後は、PTZF 位置は起動時の位置に戻り、ビデオコーデック設定は SDI ビデオフォーマットに応じた初期状態に戻ります。

画像ブレ補正

画像ブレ補正を設定します。チェックボックスを選択すると、振動のある場所に設置したときに揺れの少ない映像を表示できます。

ご注意

- ・画像ブレ補正を設定すると、撮影される画角が小さくなります。
- ・振動によっては、画像ブレ補正を設定しても補正が効かない場合があります。
- ・画像ブレ補正の選択は、カメラ設置時に行ってください。

画像反転

画像の上下反転を行います。通常は［オフ］で使用します。天井に設置するときは［オン］で使用します。

ご注意

画像反転のオン／オフ切り替えを行うと、プリセットされた設定、パンチルト制限の設定はすべて削除されます。また、ビデオコーデック設定は SDI ビデオフォーマットに応じた初期状態に戻ります。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（19 ページ）をご覧ください。

初期化タブ



再起動

強制的にシステムを再起動するときに使います。[再起動] をクリックすると、「強制的にシステムを再起動します。よろしいですか？」と表示されます。[OK] をクリックするとカメラが再起動します。再起動には約 2 分かかります。

工場出荷設定

カメラを出荷時の設定に戻すときに使います。

ネットワーク設定を保持する

この項目にチェックすると、工場出荷設定に戻すときに、ネットワーク設定だけは現状の設定を維持することができます。

[工場出荷設定] をクリックすると、「強制的にシステムを再起動します。よろしいですか？」と表示されます。[OK] をクリックすると、カメラのネットワークインジケータが点滅し始めます。工場出荷時の設定が終了すると、カメラが自動的に再起動します。カメラが再起動するまではカメラの電源を切らないでください。

補足

カメラ本体のリセットスイッチを押しながら本体の電源を入れても出荷時の設定に戻すことができます。詳しくは、付属の設置説明書をご覧ください。

設定保存

カメラの設定情報をファイルに保存するときに使います。[設定保存] をクリックし、Web ブラウザの指示に従ってフォルダーを指定してカメラの設定情報を保存することができます。

ご注意

プリセット 1 ～ 16 で記憶されるカメラ設定項目（63 ページ）は、設定保存されません。

設定呼び出し

保存されているカメラの設定情報を呼び出すときに使います。

[参照 ...] をクリックして、保存されているカメラ設定情報を選択します。[OK] をクリックすると、選択されたファイルに従ってカメラが設定されます。

ご注意

- ・「設定呼び出し」ではネットワークメニュー（29 ページ）の一部の設定は反映されません。
- ・「設定保存」および「設定呼び出し」で以下の項目を保存または呼び出しすることはできません。
 - － 802.1X 機能で使用する証明書
 - － SSL 機能で使用する証明書
 - － サムネイル
 - － スーパーインポーズのロゴ
 - － プリセット位置
 - － プリセットで記憶されるカメラ設定項目

スーパーインポーズのロゴ削除

[削除] をクリックすると、ビデオメニューのスーパーインポーズタブの位置設定で指定したロゴをカメラ内から削除することができます。

ロゴの表示・非表示は、スーパーインポーズタブで別途設定する必要があります。

システムログタブ

カメラのソフトウェアの動作に関する情報が記述されます。トラブルが発生したときに役立つ情報などが記録されます。

[Reload] をクリックすると、最新の情報に更新されます。

アクセスログタブ

カメラのアクセス履歴が表示されます。

[Reload] をクリックすると、最新の情報に更新されます。

サービスタブ

サービスに使用する機器情報のデータをダウンロードします。

[機器情報のダウンロードに同意します] のチェックボックスを選択し [OK] をクリックするとダウンロードができるようになります。[ダウンロード] をクリックし、Web ブラウザの指示に従ってフォルダーを指定して、カメラの機器情報を保存します。

ファイルはバイナリー形式のデータで保存されます。

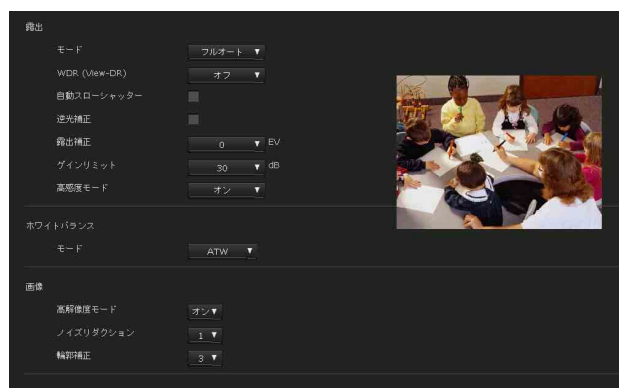
カメラ映像の設定を行う — ビデオメニュー

管理者設定メニューの **ビデオ** をクリックすると、ビデオメニューが表示されます。

このメニューではカメラ機能の設定を行うことができます。

ビデオメニューは、[画像]、[ビデオコーデック]、[スーパーインポーズ]、[デイ／ナイト ICR] のタブで構成されます。

画像タブ



カメラの色再現や露出などに関する設定を行います。

プレビュー画面

映像をモニターし、画像の設定を行います。

露出

リモートコントローラーからも設定が出来ます。
「EXPOSURE メニュー」(54 ページ) をご覧ください。

モード

露出関連の設定を行います。

[フルオート]：カメラのゲイン、アイリスおよびシャッタースピードを自動で調整します。

[シャッター優先]：カメラのゲインとアイリスは自動で調整し、シャッタースピードを選択することができます。

[アイリス優先]：カメラのゲインとシャッタースピードは自動で調整され、アイリス（絞り）を選択することができます。

[手動]：カメラのゲイン、アイリスおよびシャッタースピードを手動で調整できます。

[ブライト]：カメラのレベル（ゲインおよびアイリスの組み合わせによる明るさ）を調整できます。

ご注意

ゲインリミット設定が43dB（最大）以外に設定されている場合にはブライトレベル範囲も制限されます。

WDR (View-DR)

逆光下のようなコントラストの強いシーンにおいて、白とびや黒つぶれの発生を軽減させる機能です。リストボックスから「オフ」以外を選択すると機能が有効になります。モードが「フルオート」時のみ有効にできます。

ご注意

- ・機能を有効にした際には画面の輝度変化が一瞬発生します。
- ・光量の変化が多い場合に、画面が一瞬停止する場合があります。

自動スローシャッター

チェックボックスを選択すると自動スローシャッター機能を有効にできます。モードが「フルオート」時のみ選択できます。

逆光補正

チェックボックスを選択すると逆光補正機能が動作します。モードが「フルオート」時のみ有効にできます。

露出補正

リストボックスから露出補正值を選択し、自動露出設定の目標とする明るさを調整します。大きな値を設定するとより明るく、小さい値を設定すると暗くなります。モードが「フルオート」、「シャッター優先」、「アイリス優先」時のみ選択できます。

ゲインリミット

リストボックスから自動露出制御のゲインの上限を選択します。モードが「フルオート」、「シャッター優先」、「アイリス優先」時のみ選択できます。

ご注意

ゲインリミットの項目で表示されている値は標準値です。実際の値とは一致していません。

シャッタースピード

リストボックスから、シャッタースピードを選択します。モードが「シャッター優先」、「手動」時のみ選択できます。

ご注意

現在の設定値から変化量の多いシャッタースピード設定に切り替えた場合、設定値の反映に時間がかかることがあります。

この間、設定表示が実際の設定値と一致しない状態になりますが、ブラウザを再読み込みすることで、正しい設定値が表示に反映されます。

アイリス

リストボックスからアイリス値を選択します。モードが「アイリス優先」、「手動」時のみ選択できます。

ご注意

現在の設定値から変化量の多いアイリス値に切り替えた場合、設定値の反映に時間がかかることがあります。この間、設定表示が実際の設定値と一致しない状態になりますが、ブラウザを再読み込みすることで、正しい設定値が表示に反映されます。

ゲイン

リストボックスからゲインを選択します。モードが「手動」時のみ選択できます。

レベル

リストボックスから明るさのレベルを選択します。モードが「ブライト」時のみ選択できます。

高感度モード

リストボックスから高感度モードのオン / オフを選択できます。オンに設定すると、通常のゲインが大きくなるに応じて高感度化のゲインが上乘せされてかかります。すべてのモードで選択できます。

ご注意

オン時にはオフ時よりもノイズの多い映像となります。

ホワイトバランス

リモートコントローラーからも設定が出来ます。「WHITE BALANCE メニュー」(55 ページ) をご覧ください。

モード

ホワイトバランスモードを選択します。

[自動]：人の見た目に近い色再現を自動で調整します。
(約 2500 K ~ 6000 K)

[ATW]：照明などの影響を受けにくく、本来の色に近い色再現を自動で調整します。(約 2000 K ~ 10000 K)

[屋内]：屋内撮影に適したホワイトバランスに調整されます。

[屋外]：屋外撮影に適したホワイトバランスに調整されます。

[ワンプッシュ]：選択すると「ワンプッシュトリガー」が有効になります。「オン」をクリックすると、ホワイトバランスが調整されます。調整前に画面中央に大きく白い被写体を写しておくようにしてください。

ご注意

「SYSTEM メニュー」(57 ページ) の DISPLAY INFO が ON になっていても、SDI 出力にホワイトバランスの調整結果は出力されません。

【手動】：選択すると [R ゲイン] と [B ゲイン] が設定可能になります。ゲイン値は 0 ～ 255 の範囲で設定できます。

画像

リモートコントローラーからも設定が出来ます。
「PICTURE メニュー」(55 ページ) をご覧ください。

高解像度モード

高解像度モードのオン / オフを選択できます。オンに設定すると、エッジを強調し、より解像感のある映像が得られます。

ノイズリダクション

ノイズ (固定パターンノイズ、ランダムノイズなど) を除去して、より鮮明な映像を得るための機能です。
オフ (MIN) の状態、もしくは、ノイズリダクションのレベルを 1 から 5 (MAX) までの 5 段階を設定できます。

輪郭補正

鮮鋭度を選択します。大きな値を設定するとよりくっきりした画像になります。小さい値を設定すると輪郭が柔らかな画像になります。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」(19 ページ) をご覧ください。

ビデオコーデックタブ

ビデオ (映像) コーデックに関する設定を行います。

映像 1、映像 2、映像 3

映像のコーデックモードを 3 つまで設定できます。各映像モードに対してそれぞれ以下の設定をしてください。

ご注意

SDI ビデオフォーマットの設定によって選択できる画像サイズ、フレームレートが変わります。

画像コーデック

[H.264]、[JPEG] または [オフ] を選択します。ただし、映像 1 はオフにできません。

ご注意

映像 1 に設定するコーデックの種類、画像サイズ、フレームレートによって、映像 2、映像 3 のコーデックに設定できる画像サイズやフレームレート、画質設定に制限が加わる場合があります。

- ・画像サイズが 1920 × 1080 に設定されている際には、ビットレートを 16000 kbps 以上に設定すると、フレームレートは 30 fps を超えて設定できません。
- ・画像サイズが 1920 × 1080 に設定されている際には、フレームレートを 60 fps に設定すると、ビットレートは 8000 kbps を超えて設定できません。
- ・「SSL 機能」(35 ページ) を [有効] に設定している場合は、ビットレートを 1000 kbps 以下、フレームレートを 30 fps 以下、同時映像ストリーミング数は 2 以下で使用してください。

また、映像 1、2、3 の画像サイズ、フレームレート、ビットレートの組み合わせによっては、以下の症状が発生することがあります。

このような症状が発生した場合は、それぞれのパラメータの値を小さくすることで調整してください。

- ・映像の遅延が大きくなる。
- ・映像再生時にフレームスキップが生じる。
- ・音声途切れ途切れになる。
- ・さまざまなコマンドに対しカメラの応答が遅くなる。
- ・リモートコントローラーからの操作に対しカメラの応答が遅くなる。

画像サイズ

カメラから配信される画像サイズを選択します。

ご注意

- ・画像サイズによっては、一部のエリアが表示されない場合があります。
- ・画像サイズが 720 × 574、720 × 480 の場合は全エリアが表示されますが、ピクセルアスペクト比が 1:1 で表示されません。

フレームレート

映像のフレームレートを設定します。

“fps” は 1 秒間に配信されるフレーム数を示す単位です。JPEG 映像のフレームレートは「画質設定」により変わります。

I ピクチャ間隔

I ピクチャー挿入間隔を秒単位で設定します。

H264 プロファイル

H.264 コーデック映像のプロファイルを [high]、[main]、[baseline] 方式から選択します。映像の圧縮効率は [high]、[main]、[baseline] の順で高いものになります。お使いのシステムによっては、特定のプロファイル方式が正しく扱えない場合があります。お使いのシステムにあった方式を選択してください。

ビットレート制御モード

[CBR]、[VBR]、または「自動レート制御」を選択します。ビットレートを一定に保ちたい場合は [CBR] を選択し、画質を一定に保ちたい場合は [VBR] を選択してください。

「自動レート制御」を選択した場合は、不安定なネットワーク接続環境や外乱の多いワイヤレスネットワーク接続環境において最適なビットレートに自動調整されます。

ご注意

- ・実際に配信されるフレームレートやビットレートは、画像サイズ、撮影シーン、ネットワーク環境などによって設定値とは異なる場合があります。
- ・Plug-in free viewer 使用時には、自動レート制御は動作できません。
- ・「自動レート制御」を使用する場合はライブビューアー画面での接続方法を「ユニキャスト」にしてください。接続方法 [TCP] で接続した場合には自動レート制御されません。「ネットワーク経由での操作」の「通信方式を切り替える」(18 ページ) をご覧ください。

最小、最大

「ビットレート制御モード」が「自動レート制御」のとき、自動レート制御で調整される上限と下限のビットレートを設定します。

ビットレート

動作させる「画像コーデック」を [H.264] に設定し、「ビットレート制御」を [CBR] にしたときに、映像配信の 1 回線あたりのビットレートを設定することができます。ビットレートを大きい値に設定すると高画質な映像を配信することができます。

画質設定

「画像コーデック」を [JPEG] に設定した場合、または「画像コーデック」は [H.264] で「ビットレート制御」を [VBR] に設定した場合に、画質設定が有効になります。[1] ～ [10] まで選択できます。[10] を選択すると最高画質になります。設定により、選択できる数値が変わります。

最大ビットレート制限

「ビットレート制御モード」が [VBR] のとき、チェックボックスを有効にするとビットレートの最大値を設定することができます。

【最大】：VBR で動作しているときのビットレートの最大値を設定します。

【フレームスキップ許可】：チェックボックスを有効にすると、ビットレート制御のためにフレームスキップすることを許可します。

帯域制限

「画像コーデック」を [JPEG] に設定したときに、カメラが出力する JPEG 映像データのネットワーク帯域を制限することができます。

ご注意

帯域制限を行うと、設定によっては音声途切れる場合があります。この場合は、制限する帯域を大きくしてください。設定が [0] のとき、帯域制限は行われません。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」(19 ページ) をご覧ください。

スーパーインポーズタブ



映像に任意の文字列や日付／時刻の文字を重ねて合成（スーパーインポーズ）するかどうかを設定します。3つの文字列と、1つのロゴ（静止画）を同時に重ねることができます。

ご注意

- ・スーパーインポーズの設定を行う前に、ビデオメニューのビデオコーデックタブの「画像サイズ1」を最大に設定してください。
- ・システムメニューにある設置タブの「画像ブレ補正」を選択しているときは、チェックをはずしてください。スーパーインポーズの設定後に戻してください。

プレビュー画面

映像をモニターし、スーパーインポーズの調整を行います。

プレビュー画面上に表示されているスーパーインポーズの表示位置はドラッグ&ドロップで移動できます。

映像

スーパーインポーズの設定を行う対象のビデオコーデックの番号を選択します。

リストボックスの横にあるチェックボックスを選択すると、スーパーインポーズを設定できます。

ビデオコーデックの番号の詳細はビデオメニューのビデオコーデックタブで設定します。

位置

プレビュー画面上の表示位置番号または、ロゴを選択します。ロゴが選択されているときは、ロゴファイルを選択する設定が表示されます。

ご注意

使用できるロゴファイルには以下の制限があります。

ファイルのフォーマット：アルファチャンネル付き PNG8

イメージサイズ：160 × 120 以下

横ピクセル数：16 の倍数

ロゴの削除は初期化タブで行います。

表示位置番号 1、2、3 が選択されているときは、以下の設定メニューが表示されます。

タイプ

コーデック、日付／時刻、テキスト、ズーム倍率から表示情報のタイプを設定します。

【コーデック】：ビデオコーデック情報を表示します。

【日付／時刻】：日付と時刻を表示します。

【テキスト】：任意の文字列を表示します。

【ズーム倍率】：ズーム倍率情報を表示します。

任意文字列

位置ごとのスーパーインポーズの内容を記述します。

タイプがコーデックの場合 <codeinfo>、日付／時刻の場合 <datetime>、ズーム倍率の場合 <zoomratio> と表示され、前後に任意の文字列を追加することができます。

文字の色

スーパーインポーズする文字の色を選択します。

背景色

スーパーインポーズする文字の背景色を選択します。

アライメント

スーパーインポーズする文字の水平方向の寄せ位置を設定します。

透過

スーパーインポーズする文字の背景色の透過度を選択します。[オフ] のときは透過しません。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」(19 ページ) をご覧ください。

デイ／ナイト ICR タブ

カメラのデイ／ナイト ICR 機能に関する設定を行います。

モード

デイ／ナイト ICR 機能のモードを選択します。デイ／ナイト ICR 機能には次のモードがあります。

自動

通常はデイモードで動作します。暗いところでは自動的にナイトモードに切り替わります。

切換レベル

モードが「自動」の時、選択できます。

デイモードに切り替わるときの明るさのレベルを選択します。

ご注意

〔自動〕でご使用の場合、画像タブのゲインリミット設定値によっては明るい状態でもナイトモードへ切り替わる場合があります。この場合、ゲインリミット値を大きくしてご使用ください。

手動

デイ／ナイト ICR モードの切り替えを手動で制御します。〔手動〕を選択した場合、ナイトモードにチェックを入れると、ナイトモードになります。チェックを外すとデイモードになります。

状態

デイ／ナイト ICR の状態を表示します。

近赤外光補正

IR ランプを利用している場合や、近赤外光を多く含むような環境に適した補正を行います。チェックボックスを選択するとナイトモードでの自動フォーカスの精度が向上します。

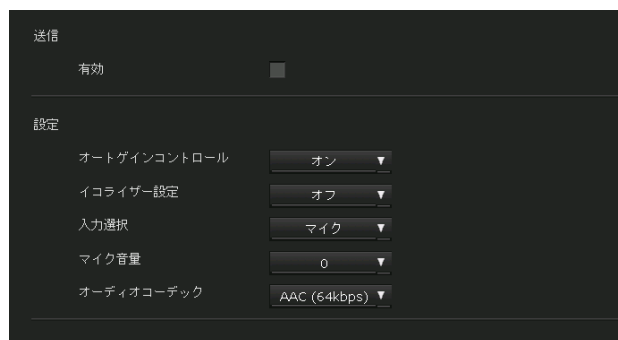
OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（19 ページ）をご覧ください。

カメラの音声の設定を行う — オーディオメニュー

管理者設定メニューの **オーディオ** をクリックすると、オーディオメニューが表示されます。このメニューではカメラの音声に関する設定を行います。オーディオメニューは〔オーディオ〕タブで構成されます。

オーディオタブ

**送信****ご注意**

- ・ SDI 端子には音声は出力されません。
- ・ Plug-in free viewer 使用時には音声出力されません。

有効

カメラに入力される音声を配信したい場合にはチェックボックスを選択します。

ご注意

〔有効〕をチェックした場合、すでに開いているライブビューアーページに設定変更を反映させるには、Web ブラウザの〔更新〕をクリックしてください。

設定

音声の配信に関する設定をします。

オートゲインコントロール

音声入力レベルを、最適な音量レベルに自動的に補正します。

イコライザー設定

使用環境に応じて、音声の周波数特性を変更することが出来ます。

〔オフ〕：イコライザー設定を無効にします。

[**低域低減**]：低域をカットし、空調設備やプロジェクターなどの雑音を軽減します。

[**音声強調**]：低域・高域をカットし、人の声をよりクリアに強調します。

入力選択

マイク入力かライン入力かを選択します。

マイク音量

マイク入力するとき、マイク入力端子から入力される音量レベルを設定します。[- 10] ～ [+ 10] の範囲で設定できます。

オーディオコーデック

音声を送信する場合に使用するコーデックの種類を選択します。コーデックの種類によってビットレートが異なります。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」(19 ページ) をご覧ください。

ネットワークを設定する — ネットワークメニュー

管理者設定メニューの **ネットワーク** をクリックすると、ネットワークメニューが表示されます。

このメニューでは本機とコンピューターを接続するためにネットワーク設定を行います。

ネットワークメニューは [ネットワーク]、[QoS] タブで構成されます。

ネットワークタブ

状態

MAC アドレス: 30:19:ad:22:b4:a6

イーサネット状態: 100full

ポート-MDI/MDIX: 強制

IP アドレス: **.*.*.*.*

サブネットマスク: 255.255.255.0

デフォルトゲートウェイ: **.*.*.*.*

リンクローカルIPアドレス: 169.254.110.233

プライマリ DNS サーバー: **.*.*.*.*

セカンダリ DNS サーバー: **.*.*.*.*

IPv6 アドレス 1: *****(169.254.110.233)****

IPv6 アドレス 2:

IPv6 デフォルトゲートウェイ: *****(169.254.110.233)****

リンクローカルIPv6 アドレス: fe80::32f9:adff:fe30:19ad

IPv4 設定

IP アドレスを自動的に取得する (DHCP) ☒

ホスト名:

ドメインサフィックス:

IPv6 設定

IP アドレスを自動的に取得する ☒

共通設定

HTTP ポート番号: 80 (80, 1024 ~ 65534)

MTU: 1500 (1280 ~ 1500)

DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する ☒

VISCA インターフェース: IP ▼

本機をネットワークケーブルで接続するための設定を行います。

状態

MAC アドレス

カメラの MAC アドレスを表示します。

イーサネット状態

現在の通信速度を表示します。

オート MDI/MDIX

本機に接続されたイーサネット機器のポートを自動判別して、本機のポートを MDI または MDI-X に切り替えて通信を行います。

本機のイーサネットポートのモードを表示します。

IP アドレス

現在の IP アドレスを表示します。

サブネットマスク

現在のサブネットマスクを表示します。

デフォルトゲートウェイ

現在のゲートウェイアドレスを表示します。

リンクローカル IP アドレス

現在のリンクローカル IP アドレスを表示します。

プライマリー DNS サーバー

現在のプライマリー DNS サーバーアドレスを表示します。

セカンダリー DNS サーバー

現在のセカンダリー DNS サーバーアドレスを表示します。

IPv6 アドレス 1、2

現在の IPv6 アドレスを表示します。

IPv6 デフォルトゲートウェイ

現在の IPv6 デフォルトゲートウェイを表示します。

リンクローカル IPv6 アドレス

現在の IPv6 リンクローカルアドレスを表示します。

IPv4 設定

IPv4 のネットワーク設定をします。

IP アドレスを DHCP サーバーから自動的に取得するときは

[IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)] を選択します。

IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイが自動的に割り当てられます。

ご注意

[IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)] を選択する場合は、ネットワーク上で DHCP サーバーが稼働していることを確認してください。

固定 IP アドレスを設定するときは

[IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)] の選択をはずします。[IP アドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ] 欄にそれぞれの値を入力します。[ホスト名]、[ドメインサフィックス] は使えません。

IP アドレス

カメラの IP アドレスを入力します。

サブネットマスク

サブネットマスク値を入力します。

デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイを入力します。

ホスト名

DHCP サーバに送信するカメラのホスト名情報を入力します。[IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)] を選択したときのみ有効となります。

ドメインサフィックス

DHCP サーバーに送信するカメラのドメインサフィックス情報を入力します。[IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)] を選択したときのみ有効となります。

ご注意

ドメインサフィックスは、[ホスト名] が設定されている場合に FQDN (Fully Qualified Domain Name) 情報として DHCP サーバーに送信されます。

IPv6 設定

IPv6 のネットワークを設定します。

IPv6 アドレスを自動的に取得するときは

[IP アドレスを自動的に取得する] を選択します。

IP アドレス、プレフィックス長、デフォルトゲートウェイが自動的に割り当てられます。

ご注意

[IP アドレスを自動的に取得する] を選択する場合は、IPv6 の割り当てが可能なことをネットワーク管理者にご確認ください。

マルチプレフィックス環境での運用はサポートしていません。正しく通信できない可能性が有りますのでご注意ください。

固定 IPv6 アドレスを設定するときは

[IP アドレスを自動的に取得する] の選択をはずします。[IP アドレス]、[プレフィックス長]、[デフォルトゲートウェイ] 欄にそれぞれの値を入力します。

IP アドレス

カメラの IP アドレスを入力します。

プレフィックス長

プレフィックス長の値を入力します。

デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイを入力します。

共通設定

IPv4 と IPv6 共通のネットワーク設定を行います。

HTTP ポート番号

HTTP で使用するポート番号を入力します。通常は 80 を入力します。

MTU

イーサネットポートの IP-MTU サイズの値を入力します。

DNS サーバーのアドレスを自動的に取得するときは

[DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する] を選択します。[プライマリー DNS サーバー]、[セカンダリー DNS サーバー] のアドレスが自動的に割り当てられます。

ご注意

DNS サーバーのアドレスを自動的に取得するためには、IPv4 の設定で [IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)]、または IPv6 の設定で [IP アドレスを自動的に取得する] いずれかが有効になっている必要があります。

ネットワーク管理者にご確認のうえ、自動的に DNS サーバーアドレスが取得できる環境で有効にしてください。

DNS サーバーのアドレスを設定するときは

[DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する] の選択をはずします。[プライマリー DNS サーバー]、[セカンダリー DNS サーバー] 欄にそれぞれの値を入力します。

プライマリー DNS サーバー

プライマリー DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

セカンダリー DNS サーバー

必要があれば、セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

VISCA インターフェース

リモートコントローラーとの接続方法を選択します。RS-422 端子を使って接続するときは [シリアル] を選択します。ネットワークケーブルを使って本機の LAN ポートと接続するときは [IP] を選択します。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」(19 ページ) をご覧ください。

QoS タブ

The screenshot shows the 'IPv4 QoS' configuration interface. At the top, there are checkboxes for '有効' (Enabled) and 'ルール' (Rule). Below this is a table for defining QoS rules. The table has columns: '番号' (Number), 'ネットワークアドレス' (Network Address), 'サブネット' (Subnet), 'プロトコル' (Protocol), 'ポート' (Port), and 'DSCP'. Rule 1 is selected and highlighted in blue. Below the table are buttons for 'セット' (Set), '再読み込み' (Reload), '上に移動' (Move Up), and '下に移動' (Move Down).

番号	ネットワークアドレス	サブネット	プロトコル	ポート	DSCP
1			TCP	0	0
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

本機から送信される各種データトラフィックのパケットにマークを付け、QoS を制御するための設定を行います。データトラフィックの種別は、IPv4 アドレス、ポート番号、プロトコルなどでルールを作成できます。ルールは、最大 10 件登録できます。

IPv4 QoS

有効

IPv4 の QoS の設定を行うときはチェックボックスを選択します。

ルール

QoS を登録、編集、削除を行うときに使います。

番号

QoS テーブルに登録する際の番号を選択します。登録済みの番号を選択すると登録済みの QoS 情報が表示されます。

ネットワークアドレス

QoS の対象とする宛先のネットワークアドレス値を入力します。

サブネット

QoS の対象とする宛先のサブネットマスク値を入力します。

補足

サブネットマスク値はネットワークアドレスの左からのビット数を表します。

プロトコル

プロトコルを選択します。

ポート

本機のデータトラフィックのポート番号（例 HTTP:80）を入力します。

DSCP

データトラフィックにマークする値（0 ～ 63）を設定します。

この値はデータトラフィックの IP ヘッダーに含まれる DSCP フィールドにセットされます。

セット

QoS テーブルに登録するときに使います。

次の手順で QoS を設定します。

- 1 [番号] で登録する番号を選択し、[ネットワークアドレス]、[サブネット]、[プロトコル]、[ポート番号] の中の必要な条件を入力する。
- 2 [DSCP] に値を入力する。
- 3 [セット] をクリックして、QoS の設定をする。

削除

設定を削除するときに、[番号] で削除する番号を選択し [削除] をクリックします。

上に移動

ルールの順序を上げます。

QoS テーブルの中から優先したいルールを選択し、[上に移動] をクリックします。

下に移動

ルールの順序を下げます。

QoS テーブルの中から下げたいルールを選択し、[下に移動] をクリックします。

QoS テーブル

登録した QoS 情報の一覧を表示します。一致する条件が複数あるときは、番号の小さいルールが優先されます。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（19 ページ）をご覧ください。

セキュリティ設定をする — セキュリティメニュー

管理者設定メニューの **セキュリティ** をクリックすると、セキュリティメニューが表示されます。

セキュリティメニューは [ユーザー]、[アクセス制限]、[SSL]、[802.1X]、[Referer チェック] のタブで構成されます。

管理者とユーザーについて

本機では、ログインする人を「管理者」と「ユーザー」に区別しています。

「管理者」はカメラの設定を含め、本機のすべての機能を利用することができます。「ユーザー」はカメラの映像・音声のモニターとカメラの操作だけを行うことができます。ユーザーは「ビューアーモード」の設定により、利用できる機能（アクセス権）を限定され、5 種類のユーザーに区別されます。

それぞれの利用できる機能は次のとおりです。

機能	管理者	ユーザー			
		フル	パン・チルト	ライト	ビュー
ライブ画像を見る	○	○	○	○	○
日付・時刻を見る	○	○	○	○	○
フレームレート を操作する (JPEG モード時のみ利用可)	○	○	×	×	×
画像表示サイズ を操作する	○	○	○	○	×
静止画像と動画 画像をコン ピューターに保 存する	○	○	○	○	×
TCP/UDP 通信 を切り替える (H264 モード時のみ利用可)	○	○	×	×	×
ハードウェアア クセラレーショ ンの有効化、無 効化を切り替え る	○	○	○	○	○
パン・チルト・ ズーム操作を行 う	○	○	○	×	×
音声を受信する	○	○	○	○	○
コーデックを選 択する	○	○	○	○	×

機能	管理者	ユーザー			
		フル	パン・チルト	ライト	ビュー
設定メニューを操作する	○	×	×	×	×

○ 利用できる機能、× 利用できない機能

ユーザータブ

管理者と最大9ユーザー（ユーザー1～ユーザー9）のユーザー名とパスワード、および各ユーザーのビューアーモードが設定できます。

管理者、ユーザー1～ユーザー9

各列に [ユーザー名]、[パスワード]、[パスワード確認]、[ビューアーモード] を設定します。

ユーザー名

ユーザー名を5～16文字の英数字で入力します。

パスワード

パスワードを5～16文字の英数字で入力します。

パスワード確認

パスワードの確認のために、パスワード欄に入力した文字と同じ文字を再入力します。

ビューアーモード

ビューアーを表示するときにユーザー認証を行う場合、認証後に表示させるビューアーのモードを選択できます。

[管理者]：このモードでは、設定メニューを含めたすべての操作が可能です。

[フル]：設定メニュー以外のすべての操作が可能です。

[パン・チルト]：ライトモードに加えて、カメラのパン・チルト・ズーム操作が可能です。

[ライト]：ビューモードに加え、ライブビューアーの画像サイズ選択やコーデックの選択、静止画取得が可能です。

[ビュー]：カメラ映像のモニターのみが可能です。

ビューアー認証

ビューアーを表示するときにユーザー認証を行うかどうかの設定を行います。

ビューアー認証のチェックボックスが選択されているときは、認証ユーザーに合ったビューアーモードでビューアーが表示されます。選択されていないときは、認証をせずに表示させるビューアーのビューモードを [フル]、[パン・チルト]、[ライト]、[ビュー] の中から選択します。

認証モード

ユーザー認証で使用する認証方式を設定します。

[Basic 認証]：ベーシック認証を使用します。

[Digest 認証]：ダイジェスト認証を使用します。

ご注意

[認証モード] を変更した場合は、Web ブラウザを閉じて、アクセスし直してください。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（19 ページ）をご覧ください。

アクセス制限タブ

本機にアクセスできるコンピュータを制限するセキュリティ機能を設定します。

IPv6 使用時も同様にネットワークごとにセキュリティの設定ができます。

有効

アクセス制限を有効にするときは、チェックボックスを選択します。

デフォルトポリシー

下記のネットワークアドレス／サブネット1～ネットワークアドレス／サブネット10に設定するネットワークアドレス以外のコンピューターに対して、アクセス制限を「許可」にするか、「拒否」にするかを設定します。

ネットワークアドレス／サブネット1～ネットワークアドレス／サブネット10

アクセスを許可または拒否したいネットワークアドレス／サブネットマスク値を入力します。
10種類のネットワークアドレス／サブネットマスクが設定可能です。
サブネットマスクは8～32を入力します。
(IPv6の場合は、8～128を入力します。)
それぞれのネットワークアドレス／サブネットマスクに対し、右のリストボックスで「許可」、または「拒否」を設定できます。

補足

サブネットマスク値はネットワークアドレスの左からのビット数を表わします。
たとえば255.255.255.0のサブネットマスクに対しては24となります。
「192.168.0.0/24」、「許可」と設定すれば192.168.0.0～192.168.0.255のIPアドレスのコンピューターに対してアクセスを許可できます。

ご注意

アクセス制限を「拒否」に設定されたIPアドレスのコンピューターからでも、セキュリティメニューのユーザータブで管理者権限に設定したユーザーとパスワードを認証画面で入力するとカメラにアクセスすることができます。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」(19ページ)をご覧ください。

SSL タブ

SSL または TLS 機能に関する設定を行います（これ以降 SSL または TLS 機能のことを単に SSL と呼びます）。この設定を行うことで、クライアント機器とカメラ間で SSL 通信を行うことができます。

ご注意

- ・ SSL 機能をお使いの場合には、必ずカメラの日付と時刻を合わせた上で、設定を行ってください。日付と時刻が合っていない場合には、ブラウザで接続できないといった問題が発生することがあります。

- ・SSL の設定を変更したときは画面のリロード（更新）を行ってください。リロードを行うには、キーボードの F5 キーを押してください。

共通設定

SSL 機能

SSL 機能を使用する場合に「有効」を選択します。

「有効（同時に HTTP 接続を許可）」が選択されている場合は、SSL 接続と同時に HTTP 接続を行うことができます。「有効」が選択されている場合は、SSL 接続のみが許可されます。

Internet Explorer をご利用の場合

安全に SSL 通信を行っている場合は、ブラウザのアドレスバーの右側に  のマークが表示されます。

SSL 接続をはじめて行う場合は

SSL 機能を「有効」に設定して SSL 接続のみを行う場合、SSL 機能が適切に動作しないと、カメラにアクセスすることができなくなります。

この場合、カメラを工場出荷時の設定に戻す必要があります。（すべての設定内容が初期化されます。）

これらを避けるため、はじめに SSL 接続が可能なことを、次の手順で確認してください。

- 1 SSL 機能を「有効（同時に HTTP 接続を許可）」に設定する。
- 2 「OK」ボタンを押し、ビューアーと設定画面を閉じる。
- 3 SSL 接続でビューアーを表示する。
接続のしかたは「SSL 機能をご利用の場合」（12 ページ）をご覧ください。
- 4 SSL 接続が可能なことを確認してから、SSL 機能を「有効」に設定する。

確認の途中で SSL 接続ができずに設定画面やブラウザを閉じてしまっても、「有効（同時に HTTP 接続を許可）」を選択しているので、HTTP 接続が可能です。HTTP 接続で SSL タブの設定内容を確認してから、もう一度 SSL 接続を確認してください。

「有効（同時に HTTP 接続を許可）」を選択していない場合、SSL 接続ができなくなると、カメラにアクセスすることもできなくなります。この場合は、カメラ本体のリセットスイッチを押しながら本体の電源を入れて工場出荷時の設定に戻してください。詳しくは、付属の設置説明書をご覧ください。

ご注意

SSL 接続を行う場合はカメラに負荷がかかるため、ブラウザから設定画面にアクセスした際に画像がすべてダウンロードされず、 のマークが表示されることがあります。そのような場合に画面のリロード（更新）を行ってください。リロードを行うには、キーボードの F5 キーを押してください。

SSL サーバー認証

証明書インストール方法

証明書のインストール方法を選択します。

【外部証明書を利用】：CA 局から発行される証明書（秘密鍵情報を含む）を利用するモードです。サポートされる証明書形式は PKCS#12 形式または PEM 形式です。

ご注意

SSL 機能が「有効」に設定されていても、「証明書のインストール方法」で「外部証明書を利用」を選択しているとき、証明書と秘密鍵パスワードが適切に設定されていない場合には SSL 機能は動作しません。

【自己署名証明書を利用（テスト用）】：「自己署名証明書生成」（36 ページ）を使用して生成された証明書と秘密鍵ペアを使用するモードです。証明書に対応する秘密鍵情報はカメラ内部に保管されています。証明書を外部からインストールする必要はありませんが、次の理由から SSL 機能のひとつである実在性の証明を行うことができません。

- ーカメラが生成した秘密鍵に対して自己署名を行っているため
- ーディステイニングイッシュネーム（コモンネームなど）はあらかじめ決められた値が入っているため
- ーお客様のシステムが信頼する CA 局によって証明書の発行が行われていないため

セキュリティ上、動作テストなど完全なセキュリティが確保されていなくても問題ない場合に使用することを推奨します。

ご注意

- ・[自己署名証明書を利用 (テスト用)] を選択した場合、ブラウザを用いて SSL 接続を行うときに [セキュリティ警告] が表示されることがあります。詳しくは「SSL 機能をご利用の場合」(12 ページ) をご覧ください。
- ・カメラにインストールする証明書の種類によっては、SSL 接続できないことがあります。この場合は、「CA 局の証明書をインストールするには」(37 ページ) をご覧になりインストールを行ってください。

証明書をインポートするには

[参照 ...] をクリックして、証明書を選択します。ファイル選択時に出現するダイアログにて [OK] ボタンをクリックすると、選択されたファイルがカメラにインポートされます。

ご注意

証明書以外のファイルが選択された場合や、許可されていない形式の証明書がインポートされた場合はインポート処理が無効となります。

自己署名証明書生成

[証明書インストール方法] で [自己署名証明書を利用 (テスト用)] を選択した場合に使用する自己署名証明書をカメラ内で生成するために使用します。

[生成] をクリックすると、カメラ内に自己署名証明書が生成されます。一度 [生成] がクリックされた状態で再び [生成] をクリックすると、カメラ内で保存している自己署名証明書が更新されます。

ご注意

必ずカメラの日付と時刻を合わせた上で、本操作を行ってください。日付と時刻が合っていない場合には、ブラウザで接続できないといった問題が発生することがあります。[自己署名証明書生成] の [生成] をクリックする前に、[証明書インストール方法] に [自己署名証明書を利用 (テスト用)] を選択し [OK] ボタンを押してください。

証明書の内容表示をするには

証明書がカメラに正しく設定されると、[証明書のステータス]、[発行者識別名]、[サブジェクト識別名]、[有効期間]、[拡張キー使用法] に情報が表示されます。

証明書のステータス

証明書の有効／無効に関する情報を表示します。ステータスには以下の種類があります。

[有効]：証明書が正しく保存・設定されています。

[無効]：証明書が正しく保存・設定されていません。

無効になった場合は、以下の原因が考えられます。

- － [外部証明書を利用] が選択されている場合で、証明書に含まれる秘密鍵情報のパスワードが正しく設定されていない
- － [外部証明書を利用] が選択されている場合で、証明書に含まれる秘密鍵情報が暗号化されていないのに、秘密鍵パスワードが設定されている
- － [外部証明書を利用] が選択されている場合で、証明書に含まれるはずの秘密鍵情報が含まれていない
- － [自己署名証明書を使用する (テスト用)] が選択されている場合で、自己署名証明書生成を実施していない場合

ご注意

インポートする証明書が PKCS#12 形式の場合には、秘密鍵パスワードを正しく設定しないと [発行者識別名]、[サブジェクト識別名]、[有効期間]、[拡張キー使用法] の欄に “<Put correct private key password>” と表示されます。

正しい秘密鍵パスワードを設定しないと証明書情報は確認できません。

インポートした証明書や自己署名証明書を削除するには

[削除] をクリックすると、カメラにインポートした証明書や自己署名証明書を削除します。

秘密鍵パスワード

証明書に含まれる秘密鍵情報のパスワードを 50 文字以内で設定します。[証明書インストール方法] が [外部証明書を利用] の場合にのみ入力可能です。

証明書に含まれる秘密鍵情報が暗号化されていない場合には本項目は空欄にしてください。

秘密鍵パスワードがカメラに設定されていない場合は、入力可能なテキストフィールドが表示され、秘密鍵パスワードをそのまま入力することが可能です。

秘密鍵パスワードが設定されている場合には、入力不可のテキストフィールドとして表示されます。

リセット

すでに設定した秘密鍵パスワードを変更したい場合、このボタンをクリックすると、現在のパスワードがクリアされ、新しいパスワードの入力が可能になります。

ご注意

[リセット] をクリックした後で秘密鍵パスワードの変更を中止する場合は、画面下部の [Cancel] をクリックしてください。この場合、SSL タブの他の設定項目についても変更前の状態に戻ります。

SSL クライアント認証

カメラが SSL 機能のクライアント認証を使用する際に必要となる、CA 証明書の管理などを行います。

ご注意

- ・ クライアント認証を使用する場合には、お使いになる PC に個人用の証明書が正しくインポートされている必要があります。詳しくは「個人用の証明書をインポートするには」(39 ページ)をご覧ください。
このような準備ができない場合には、本タブの設定は行わないでください。カメラに接続できなくなる可能性があります。
- ・ SSL クライアント認証は SSL サーバー認証の証明書がアップロードされている場合에만設定可能となります。

有効

SSL 機能のクライアント認証を有効にするかどうかを設定します。

信頼する CA 証明書 1 ～ 4

信頼する CA 証明書（ルート証明書など）をカメラにインポートします。

CA 証明書は 4 つまでインポートすることができます。サポートされる証明書形式は PEM 形式です。

CA 証明書をインポートするには

- 1 [参照 ...] をクリックして、カメラに保存したい CA 証明書を選択する。
- 2 表示されるダイアログで [OK] ボタンをクリックする。
選択したファイルがカメラに転送されます。

ご注意

CA 証明書以外のファイルを送信すると、インポート処理は無効となります。

CA 証明書の内容表示するには

CA 証明書が正しくカメラに保存されると、[発行者識別名]、[サブジェクト識別名]、[有効期間]、[拡張キー使用法] に情報が表示され、証明書の内容を確認することができます。

CA 証明書を削除するには

[削除] をクリックすると選択した CA 証明書をカメラから削除します。

補足

クライアント認証を有効化したい場合には、下記のような手順で設定を行うことを推奨します。

- ① 必要な CA 証明書をインポートする。
- ② SSL クライアント認証のチェックボックスを設定し、[OK] をクリックする。

ご注意

SSL クライアント認証を [有効] に設定し、[OK] をクリックすると、カメラは直ちにクライアント認証を有効化しようと動作します。あらかじめお使いの PC に個人用の証明書が正しくインポートされていることを確認してください。詳しくは「個人用の証明書をインポートするには」(39 ページ)をご覧ください。

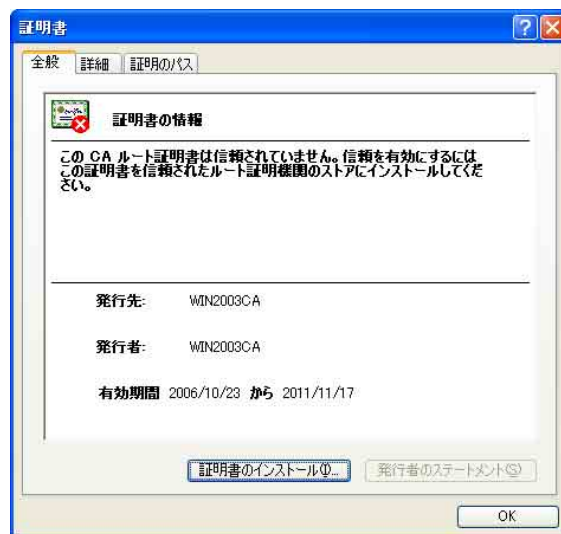
OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」(19 ページ)をご覧ください。

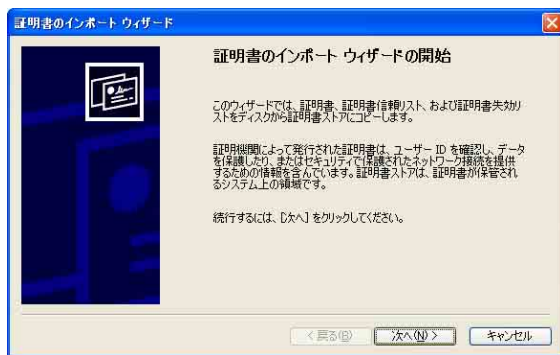
CA 局の証明書をインストールするには

カメラにインストールされる証明書の種類によっては、ブラウザ（インターネットエクスプローラ）が証明書を受け入れるかどうかのダイアログを表示することがないため、接続できないことがあります。この場合には以下の手順で、CA 局の証明書のインストールを行ってください。

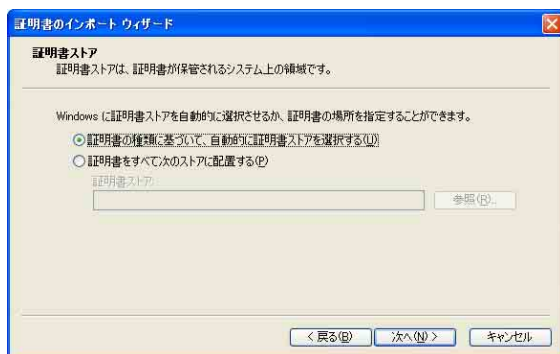
- 1 カメラにインストールする証明書の署名を行った CA 局の証明書を PC に保存する。
通常証明書ファイルの拡張子は .cer です。このファイルをダブルクリックすると、次の証明書ダイアログが表示されます。



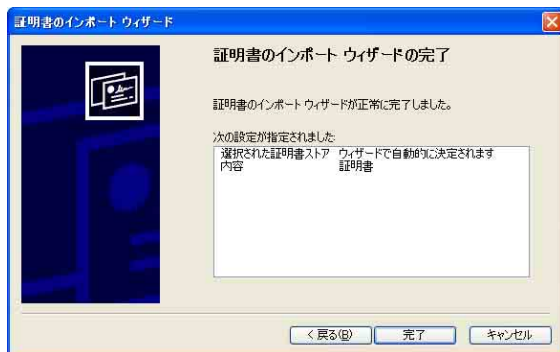
- 2 「証明書のインストール」をクリックする。
「証明書インポートウィザードの開始」が表示されます。



- 3 「次へ」をクリックする。



- 4 「証明書の種類に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する」を選択して「次へ」をクリックする。
「証明書インポートウィザードの完了」が表示されます。



- 5 内容を確認し、「完了」をクリックする。
CA 局の証明書がインストールされます。

インストールした CA 局の証明書を削除するには

- 1 Internet Explorer の「ツール」メニューから「インターネットオプション」、[コンテンツ] タブ、「証明書」を選択し、「証明書」ダイアログを表示する。



- 2 削除したい証明書を選択する。
通常、CA 局の証明書は「信頼されたルート証明機関」に保存されています。
- 3 「削除」をクリックする。
「証明書を削除しますか？」という確認のダイアログが表示されます。
- 4 「はい」をクリックする。
証明書が削除されます。
証明書の種類によっては、上記の手順でも削除できない場合があります。このような場合には以下の手順を行い、証明書のインストール状況の確認、および削除を行ってください。

ご注意

下記の手順を行うには、管理者権限のあるユーザーでログインする必要があります。

- 1 Windows メニューの「ファイル名を指定して実行」を開き、[mmc] と入力し、[OK] をクリックする。
- 2 「コンソール 1」画面で「ファイル」メニューから「スナップインの追加と削除」を選択する。
「スナップインの追加と削除」ダイアログが表示されます。
- 3 リストから「証明書」を選択して「追加」をクリックする。
「証明書スナップイン」が表示されます。

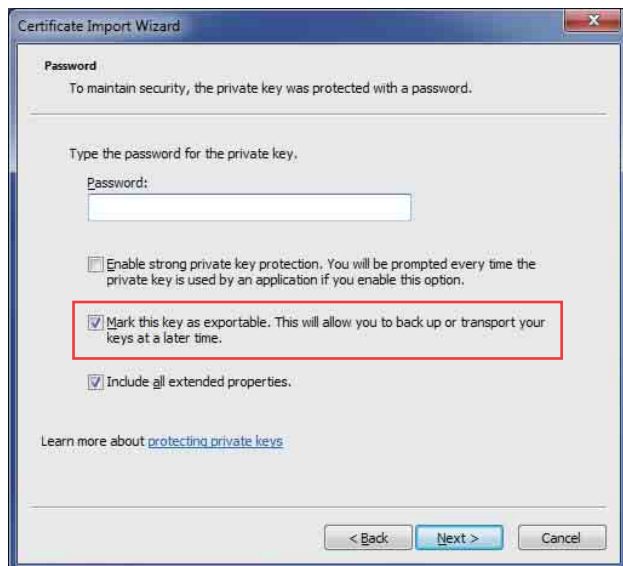
- 4 このスナップインで管理する証明書として「コンピュータアカウント」を選択し、「次へ」をクリックする。
- 5 このスナップインで管理するコンピュータとして「ローカルコンピュータ」を選択し、「完了」をクリックする。
- 6 [OK]をクリックし、「スナップインの追加と削除」ダイアログを閉じる。
コンソールルートウインドウに「証明書」を管理する項目が表示されます。
該当する証明書を確認し、削除を行ってください。

個人用の証明書をインポートするには

クライアント認証を使用する場合は、以下の手順で個人用の証明書のインポートを行ってください。

- 1 PCに保存された個人用の証明書をダブルクリックする。
- 2 「証明書インポートウィザードの開始」が表示されます。
- 3 途中で表示される「このキーをエクスポート可能にする」にチェックを入れてインポートを行ってください。

画面例：OSの言語が英語の場合



802.1X タブ

802.1X 仕様に基いた有線ポート認証を行うための設定を行います。

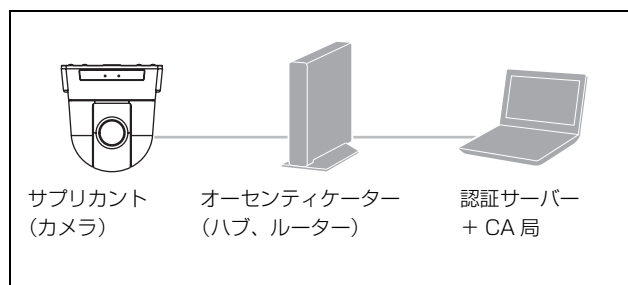
ご注意

- ・ 802.1X 認証機能をご利用になるには、あらかじめ 802.1X 認証およびデジタル証明書に関する知識が必要です。また、802.1X ネットワークを構築するには、オーセンティケーター、認証サーバーなどの設定が必要です。これらの設定については該当機器の取扱説明書などをご覧ください。

- ・ 802.1X 認証機能をお使いの場合には、必ずカメラの日付と時刻を合わせたうえで、設定を行ってください。日付と時刻が合っていない場合には、ポート認証が正しく行われない場合があります。

802.1X ネットワークのシステム構成

802.1X ネットワークの一般的なシステム構成はつぎのとおりです。



サブリカント

認証サーバーと接続し、認証ネットワークに参加する機器を指します。本カメラは 802.1X ネットワークにおいてサブリカントとなります。サブリカントは、認証サーバーと適切な認証を行うことによって 802.1X ネットワークに接続できます。

オーセンティケーター

サブリカントや認証サーバーから発行される要求データや返答データを相互に転送する役割を果たします。通常は、ハブやルーター、アクセスポイントがオーセンティケーターとなります。

認証サーバー

接続ユーザーのデータベースを持ち、接続しようとするサブリカントが正しいユーザーであるかどうかを確認します。RADIUS サーバーと呼ばれることもあります。

CA 局

認証サーバーの証明書（CA 証明書）やユーザーの証明書を発行、管理します。ユーザーの認証方法に証明書を使用する場合に必要です。通常は、認証サーバー内に CA 局を構成します。

ご注意

本機の 802.1X 認証機能は証明書を用いてサブリカントとサーバーの認証を行う EAP 方式をサポートしています。このため、証明書を発行する CA 局が必要となる場合があります。

共通設定

有効

802.1X 認証機能を使用するときは、チェックボックスを選択します。

ユーザー名

802.1X の認証サーバーにおいてクライアントを特定するユーザー名を 250 文字以内で入力します。

EAP パスワード

EAP 方式で、PEAP を選択した場合に必要なサブリカントの EAP パスワードを入力します。入力可能な文字は英数字で、入力可能な文字数は 50 文字以内です。

リセット

すでに設定した EAP パスワードを変更したい場合、[リセット] をクリックすると、現在のパスワードがクリアされ、新しいパスワードの入力が可能になります。

ご注意

[リセット] をクリックした後に、EAP パスワードの変更を中止する場合には、画面下部の [Cancel] をクリックしてください。この場合、その他の設定項目についても変更前の状態に戻ります。

EAP 方式

認証サーバーとの認証方式を選択します。本機では TLS、PEAP の 2 つ方式をサポートしています。

[TLS]：サブリカント、サーバー間の認証を双方とも証明書を使用して行う方式です。セキュリティの高いポート認証を実現することができます。

[PEAP]：サブリカントの認証には EAP パスワードを使用し、サーバーの認証には証明書を使用する方式です。

クライアント証明書

EAP 方式として TLS を選択した場合に、カメラ側の認証を行うために必要なクライアント証明書のインポート、内容表示、削除を行います。

クライアント証明書をインポートするには

[参照 ...] をクリックして、インポートしたいクライアント証明書を選択します。

表示されるダイアログで [OK] ボタンをクリックすると、選択されたファイルがカメラにインポートされます。

ご注意

クライアント証明書以外のファイルを選択したときや、許可されていない形式のクライアント証明書がインポートされたときはインポート処理が無効となります。

クライアント証明書の内容表示をするには

クライアント証明書がカメラに正しく保存されると、[証明書のステータス]、[発行者識別名]、[サブジェクト識別名]、[有効期間]、[拡張キー使用法] に情報が表示されます。

証明書のステータス

クライアント証明書の有効／無効に関する情報を表示します。ステータスには以下の種類があります。

[有効]：クライアント証明書が正しく保存・設定されています。

[無効]：クライアント証明書が正しく保存・設定されていません。

無効になった場合には、以下の原因が考えられます。

- －クライアント証明書に含まれる秘密鍵情報のパスワードが正しく設定されていない
- －クライアント証明書に含まれる秘密鍵情報が暗号化されていないのに、秘密鍵パスワードが設定されている
- －クライアント証明書に含まれるはずの秘密鍵情報が含まれていない

ご注意

インポートするクライアント証明書が PKCS#12 形式の場合には、秘密鍵パスワードを正しく設定しないと [発行者識別名]、[サブジェクト識別名]、[有効期間]、[拡張キー使用法] の欄に “<Put correct private key password>” と表示されます。正しい秘密鍵パスワードを設定しないと証明書情報は確認できません。

クライアント証明書を削除するには

[削除] をクリックすると、カメラに保存されたクライアント証明書を削除します。

秘密鍵パスワード

クライアント証明書に含まれる秘密鍵情報のパスワードを 50 文字以内で設定します。

クライアント証明書に含まれる秘密鍵情報が暗号化されていない場合には空欄にしてください。

秘密鍵パスワードがすでに設定されている場合は、パスワードが伏せ字で表示されます。

リセット

すでに設定した秘密鍵パスワードを変更したい場合、このボタンをクリックすると、現在のパスワードがクリアされ、新しいパスワードの入力が可能になります。

ご注意

[リセット] をクリックした後で秘密鍵パスワードの変更を中止する場合は、画面下部の **Cancel** をクリックしてください。この場合、クライアント証明書タブの他の設定項目についても変更前の状態に戻ります。

CA 証明書

信頼する CA 証明書（サーバー証明書、ルート証明書）をカメラへインポートします。カメラへは信頼する CA 証明書を 4 つまでインポートすることができます。サポートされる証明書形式は PEM 形式のみです。

CA 証明書をインポートするには

[参照 ...] をクリックして、カメラに保存したい CA 証明書を選択します。

表示されるダイアログで [OK] ボタンをクリックすると、選択されたファイルがカメラに転送されます。

ご注意

CA 証明書以外のファイルを選択すると、インポート処理が無効となります。

CA 証明書の内容表示をするには

CA 証明書がカメラに正しく保存されると、[発行者識別名]、[サブジェクト識別名]、[有効期間]、[拡張キー使用法] に情報が表示されます。

CA 証明書を削除するには

[削除] をクリックすると選択した CA 証明書をカメラから削除します。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」（19 ページ）をご覧ください。

Referer チェックタブ



Refererチェック ☒

例外リスト

番号: 1 ▼ ホスト名: ポート番号: 80

セット 削除

番号	ホスト名	ポート番号
1		80
2		80
3		80
4		80
5		80
6		80
7		80
8		80
9		80
10		80

Referer チェックとは、カメラに対してアクセスがあったとき、アクセスを要求した Web ページが正当なものであるか確認する機能です。正当であると確認できない場合、アクセスを拒否します。

カメラが提供する Web ページ以外からアクセスしたい場合は、例外リストに Web ページを提供するホスト名とポート番号を登録してください。

Referer チェック

Referer チェックを行うときは、チェックボックスを選択します。

例外リスト

Referer チェックの対象にしないホストを登録します。

番号

例外リストの登録番号を選択します。

ホスト名

例外リストに登録する Web ページを提供する PC のホスト名または IP アドレスを入力します。

ポート番号

例外リストに登録する Web ページを提供する PC のポート番号を入力します。

セット

入力した [ホスト名] と [ポート番号] の値を選択された番号のリストに登録します。

削除

[番号] で選択されたリストの内容を削除します。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」(19 ページ) をご覧ください。

PTZF 操作を設定する — PTZF 操作メニュー

管理者設定メニューの **PTZF 操作** をクリックすると、PTZF 操作メニューが表示されます。PTZF 操作メニューは [PTZF 操作]、[プリセット位置]、[シリアル] のタブで構成されます。

PTZF 操作タブ

リモートコントローラーからも設定が出来ます。「PAN TILT ZOOM メニュー」(56 ページ) をご覧ください。



PTZ モード

PTZ モード: 標準 ▼

デジタルズーム: オン ▼

フォーカスモード: 自動 ▼

低速モード: オフ ▼

近距離フォーカス制限: 0.3 m

パンチルト制限: ☒

左: 170 ~ 右: 170 (-170 ~ 170)

下: 20 ~ 上: 90 (-20 ~ 90)

PTZ モード

8 方向矢印ボタンを使ったパン・チルト操作 (16 ページ) や **W** / **T** ボタンを使ったズーム操作 (16 ページ) の動作モードを設定します。[標準] または [ステップ] を選択します。

[標準]: マウスをクリックするとカメラのパン・チルト・ズーム動作が始まり、クリックしている間動作します。指を放すとカメラの動作が停止します。

[ステップ]: マウスをクリックするたびに、レベルの設定に応じてカメラが移動します。約 1 秒以上クリックし続けると一時的に [標準] モードの動作になります。指を放すとカメラの動作が停止し、[ステップ] モードに戻ります。

[ステップ] を選択すると、[パン・チルトレベル] と [ズームレベル] の値を選択することができます。

[パン・チルトレベル]: パン・チルト用の 8 方向矢印ボタンをクリックしたときのカメラの移動量を [1] ~ [10] の 10 段階から選択します。[10] を選択すると移動量が最大になります。

[ズームレベル]: ズーム操作用の **W** / **T** をクリックしたときのカメラの移動量を [1] ~ [10] から選択します。[10] を選択すると、移動量が最大になります。

デジタルズーム

デジタルズームのオン／オフを選択します。

[オン]：光学 30 倍、デジタル 12 倍で合計 360 倍までのズームが可能です。

[オフ]：光学 30 倍のズームが可能です。

デジタルズーム (SRG-201SE のみ)

デジタルズームのオン／オフを選択します。

[オン]：光学 20 倍、デジタル 12 倍で合計 240 倍までのズームが可能です。

[オフ]：光学 20 倍のズームが可能です。

フォーカスモード

フォーカスモードを選択します。

[自動]：自動でフォーカスが調整されます。

[手動]：メインビューアーのコントロールパネルの 、、**One Push Focus** を使ってフォーカス調整ができます。

低速度モード

パン・チルトを低速度モードにする場合、オンを選択します。

近距離フォーカス制限

自動でフォーカスを調整する場合に、調整を行う範囲を設定します。設定された距離よりも近い対象物に対してフォーカス調整は行われません。

パンチルト制限

チェックボックスを選択するとパン・チルト範囲の制限ができます。以下の設定値を選択できます。

左：-170° ~ 169° まで、1° ごとに選択可能。

右：-169° ~ 170° まで、1° ごとに選択可能。

上：-19° ~ 90° (画像反転：オフ)

- 89° ~ 20° (画像反転：オン) まで、1° ごとに選択可能。

下：-20° ~ 89° (画像反転：オフ)

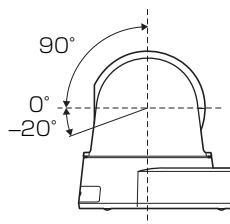
- 90° ~ 19° (画像反転：オン) まで、1° ごとに選択可能。

ご注意

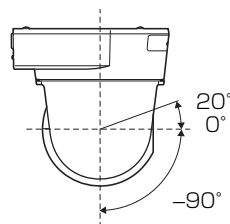
画像反転のオン／オフ切り替えを行うと、工場出荷時の設定に戻ります。設置状況時応じて、画像反転の設定を行ってから、値を選択してください。

上 / 下の設定範囲

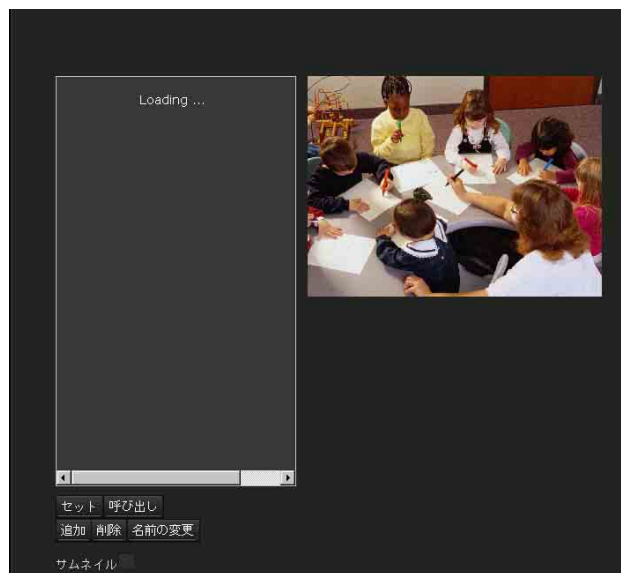
(画像反転：オフの場合)



(画像反転：オンの場合)



プリセット位置タブーパン・チルト・ズーム位置を記憶させる



カメラのパン・チルト・ズーム位置などを 256 種類まで記憶させることができます。プリセット 1 ~ 16 に関しては、リモートコントローラーからの操作でも記憶させることができます。詳細は「リモートコントローラーを使つての操作」-「カメラの状態を記憶させる-プリセット機能」(50 ページ)を参照してください。プリセット 1 ~ 16 に関しては、カメラ設定も記憶します。パン・チルト・ズームの位置だけを記憶したい場合は、プリセット 17 ~ 256 をお使いください。記憶できる設定項目については、「プリセット項目」(63 ページ)を参照してください。

ご注意

- ・カメラ設定をプリセット 1 に登録しない場合、電源を入れるとカメラ設定は保持されず初期設定状態にリセットされます。設定項目と設定保持動作については、「プリセット項目」(63 ページ)をご覧ください。
- ・「SYSTEM メニュー」(57 ページ)の DISPLAY INFO が ON になっていても、SDI 出力に設定の状態は出力されません。

プレビュー画面

映像をモニターし、プリセットの設定を行います。

セット

現在のパン・チルト・ズーム位置などを選択されているプリセットに保存します。プリセット 1～16 に関しては、カメラ設定も記憶することができます。記憶できる設定項目については、「プリセット項目」(63 ページ)を参照してください。

呼び出し

選択されているプリセットとして記憶されているパン・チルト・ズーム位置に移動させます。プリセット 1～16 に関しては、記憶されているカメラ設定も呼び出されます。

追加

現在のパン・チルト・ズーム位置などを新たなプリセットとして記憶させます。プリセット 1～16 に関しては、カメラ設定も記憶することができます。記憶できる設定項目については、「プリセット項目」(63 ページ)を参照してください。

削除

選択されているプリセットを削除し、記憶されている設定を工場出荷時の状態に戻します。各プリセットに記憶されている設定項目については、「プリセット項目」(63 ページ)を参照してください。

名前の変更

選択されているプリセットの名前を変更します。

サムネイル

チェックするとプリセットにサムネイルを登録します。現在のカメラ画像をサムネイルとして登録するか、画像を指定して登録するかを選択できます。画像を指定する場合は、[参照] をクリックして画像を指定してください。

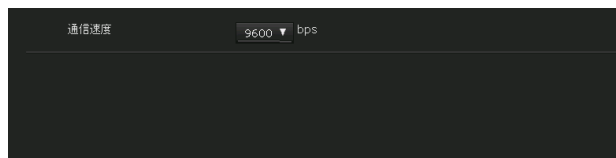
ご注意

リモートコントローラーからの操作ではサムネイル登録はできません。システムの設置タブにある画像反転のオン/オフ切り替えを行うと、プリセットされた設定はすべて削除されます。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」(19 ページ)をご覧ください。

シリアルタブ



VISCA RS-422 端子の通信設定を行います。

通信速度

VISCA RS-422 端子と外部機器を接続したときの通信速度を設定します。

ご注意

VISCA RS-422 端子と接続されているカメラ、およびリモートコントローラーの通信速度は同じ設定にしてください。接続の認識ができません。また、通信速度の変更を行った後にリモートコントローラーの電源を入れ、操作の準備をしてください。

詳しくは「リモートコントローラーを使つての操作」-「準備」(47 ページ)を参照してください。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」(19 ページ)をご覧ください。

配信に関する設定を行う — ストリーミングメニュー

管理者設定メニューの **ストリーミング** をクリックすると、ストリーミングメニューが表示されます。
このメニューではユニキャストやマルチキャストを使用した配信に関する設定を行います。
ストリーミングメニューは [ストリーミング] タブで構成されます。

ストリーミングタブ

ユニキャスト配信設定

ビデオポート番号 1	50000	(1024 ~ 65534)
ビデオポート番号 2	52000	(1024 ~ 65534)
ビデオポート番号 3	54000	(1024 ~ 65534)
オーディオポート番号	56000	(1024 ~ 65534)
RTSP ビデオポート番号 1	51000	(1024 ~ 65534)
RTSP ビデオポート番号 2	53000	(1024 ~ 65534)
RTSP ビデオポート番号 3	55000	(1024 ~ 65534)
RTSP オーディオポート番号	57000	(1024 ~ 65534)

マルチキャスト配信機能

有効 ☒

マルチキャストアドレス 1	239.192.0.200
マルチキャストアドレス 2	239.192.0.200
マルチキャストアドレス 3	239.192.0.200
ビデオポート番号 1	60000 (1024 ~ 65534)
ビデオポート番号 2	62000 (1024 ~ 65534)
ビデオポート番号 3	64000 (1024 ~ 65534)
オーディオポート番号	58000 (1024 ~ 65534)
RTSP マルチキャストアドレス	239.192.0.200
RTSP マルチキャストのビデオポート番号 1	61000 (1024 ~ 65534)
RTSP マルチキャストのビデオポート番号 2	63000 (1024 ~ 65534)
RTSP マルチキャストのビデオポート番号 3	65000 (1024 ~ 65534)
RTSP マルチキャストのオーディオポート番号	59000 (1024 ~ 65534)

RTSP 設定

RTSPポート番号	554 (554, 1024 ~ 65534)
RTSP タイムアウト	0 (0 ~ 600)

ユニキャスト配信設定

ライブビューアー内のその他パネルの [接続方法] リストボックスから [ユニキャスト] を選択したときに使用される H.264 映像データと音声データの通信ポート番号を指定します。

ビデオポート番号 1、2、3

H.264 映像データの通信ポート番号を指定します。デフォルトでは 50000 番、52000 番、54000 番に設定されています。[1024] ~ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には映像用のデータ通信・制御用として、ここで設定した番号とそれに 1 を加えた奇数番号の 2 つのポート番号が利用されます。また、同時に複数の通信を行う場合、ここで設定した番号を起点に通信ごとに異なるポート番号が利用されます。

映像 1、映像 2、映像 3 への設定がそれぞれ、ビデオポート番号 1、2、3 に対応します。

オーディオポート番号

音声データの通信ポート番号を指定します。デフォルトでは 56000 番に設定されています。[1024] ~ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には音声用のデータ通信・制御として、ここで設定した番号とそれに 1 を加えた奇数番号の 2 つのポート番号が利用されます。また、同時に複数の通信を行う場合、ここで設定した番号を起点に通信ごとに異なるポート番号が利用されます。

ご注意

ビデオポート番号とオーディオポート番号には異なる番号を指定してください。

RTSP ビデオポート番号 1、2、3

RTSP でユニキャスト配信時に使用する H.264 映像データの通信ポート番号を指定します。デフォルトでは 51000 番、53000 番、55000 番に設定されています。[1024] ~ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には映像用のデータ通信・制御用として、ここで設定した番号とそれに 1 を加えた奇数番号の 2 つのポート番号が利用されます。また、同時に複数の通信を行う場合、ここで設定した番号を起点に通信ごとに異なるポート番号が利用されます。

映像 1、映像 2、映像 3 への設定がそれぞれ、RTSP ビデオポート番号 1、2、3 に対応します。

RTSP オーディオポート番号

RTSP でユニキャスト配信する際の音声データの通信ポート番号を指定します。デフォルトでは 57000 番に設定されています。[1024] ~ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には音声用のデータ通信・制御として、ここで設定した番号とそれに 1 を加えた奇数番号の 2 つのポート番号が利用されます。また、同時に複数の通信を行う場合、ここで設定した番号を起点に通信ごとに異なるポート番号が利用されます。

マルチキャスト配信機能

本機が H.264 映像データと音声データのマルチキャスト配信を行うかどうかを設定します。同じセグメントのコンピュータに対して同じ配信データを受信させることによってカメラ側の配信負荷を軽減させることができます。

有効

マルチキャスト配信を許可する場合には、チェックボックスを選択します。
チェックボックスを選択した場合には、以下の [マルチキャストアドレス]、[マルチキャストビデオポート番号]、[マルチキャストオーディオポート番号] を適切に設定してください。

マルチキャストアドレス 1、2、3

マルチキャスト配信時に使用するマルチキャストアドレスを入力します。

ビデオポート番号 1、2、3

マルチキャスト配信時に使用する H.264 映像データの通信ポート番号を指定します。デフォルトは 60000 番、62000 番、64000 番に設定されています。[1024] ～ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には映像用のデータ通信・制御用として、ここで設定した番号とそれに 1 を加えた奇数番号の 2 つのポート番号が利用されます。映像 1、映像 2、映像 3 への設定がそれぞれ、ビデオポート番号 1、2、3 に対応します。

オーディオポート番号

マルチキャスト配信時に使用する音声データの通信ポート番号を指定します。デフォルトは 58000 番に設定されています。[1024] ～ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には音声用のデータ通信・制御用として、ここで設定した番号とそれに 1 を加えた奇数番号の 2 つのポート番号が利用されます。

ご注意

ビデオポート番号とオーディオポート番号には異なる番号を指定してください。

RTSP マルチキャストアドレス

RTSP でマルチキャスト配信時に使用するマルチキャストアドレスを設定します。

RTSP マルチキャストのビデオポート番号 1、2、3

RTSP でマルチキャスト配信時に使用する H.264 映像データの通信ポート番号を指定します。デフォルトは 61000 番、63000 番、65000 番に設定されています。[1024] ～ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には映像用のデータ通信・制御用として、ここで設定した番号と

それに 1 を加えた奇数番号の 2 つのポート番号が利用されます。

映像 1、映像 2、映像 3 への設定がそれぞれ、ビデオポート番号 1、2、3 に対応します。

RTSP マルチキャストのオーディオポート番号

RTSP でマルチキャスト配信時に使用する音声データの通信ポート番号を指定します。デフォルトは 59000 番に設定されています。[1024] ～ [65534] の偶数番号を指定してください。実際には音声用のデータ通信・制御用として、ここで設定した番号とそれに 1 を加えた奇数番号の 2 つのポート番号が利用されます。

RTSP 設定

ユニキャスト配信設定、マルチキャスト配信機能で設定する項目以外の RTSP 設定を行います。

RTSP ポート番号

RTSP 配信で使用するポート番号を設定します。デフォルトは 554 です。
設定を変更すると RTSP サーバが再起動します。

RTSP タイムアウト

RTSP 配信で Keep-Alive コマンドによるタイムアウトする時間の指定を行います。タイムアウトする時間を [0] 秒～ [600] 秒まで指定できます。
設定が [0] 秒のとき Keep-Alive コマンドによるタイムアウトが発生しません。

OK/Cancel

「各メニューの共通ボタン」(19 ページ) をご覧ください。

リモートコントローラーを使っての操作

この章では、リモートコントローラーを使ってカメラを操作する方法を説明します。

リモートコントローラーを使ってカメラの設定をする場合は、「リモートコントローラーを使っての設定」(52 ページ) をご覧ください。
ネットワーク経由で操作する場合は、「ネットワーク経由での操作」(11 ページ) をご覧ください。

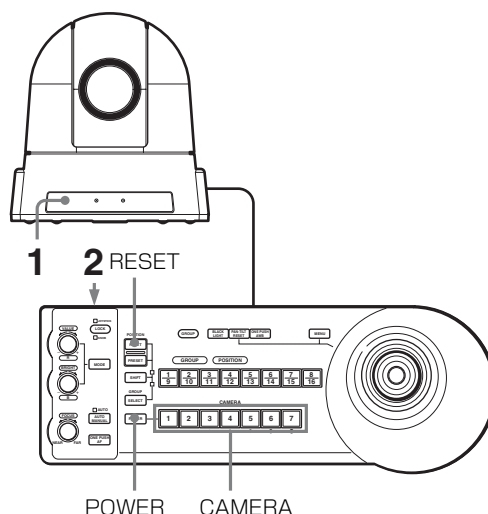
操作を行う前に、本機とリモートコントローラーおよび周辺機器が正しく設置、接続されているか確認してください。

詳しくは設置説明書および「システム構成例」(6 ページ) をご覧ください。

ご注意

- ・ 本機とリモートコントローラーの接続は IP 接続 / シリアル接続 (RS-422) の選択ができます。詳しくは「ネットワーク経由での設定」 - 「ネットワークを設定する - ネットワークメニュー」 - 「ネットワークタブ」(29 ページ) を参照してください。シリアル接続したカメラの VISCA RS-422 端子通信速度は、リモートコントローラーと同じ速度に設定してください。詳しくは「ネットワーク経由での設定」 - 「PTZF 操作を設定する - PTZF 操作メニュー」 - 「シリアルタブ」(44 ページ) を参照してください。
- ・ ネットワーク経由からの操作、およびリモートコントローラーを使っての操作は同時に行わないでください。
- ・ 映像、音声の IP 出力を行っている際には、リモートコントローラーからの操作に対しカメラの応答が遅くなる場合があります。
- ・ リモートコントローラーの詳しい設定方法につきましては、リモートコントローラーの取扱説明書をご覧ください。

準備



- 1 付属の AC アダプターを使ってカメラをコンセントにつなぐ。
電源が入り、POWER インジケーターおよび、NETWORK インジケーターが点灯、もしくは点滅します。
電源を入れると、およそ 2 分後にカメラは自動的に POSITION 1 (プリセット 1) に記憶されたパン・チルト位置とカメラ設定になります。
起動時に反映される設定項目については、「プリセット項目」(63 ページ) をご覧ください。
- 2 リモートコントローラーの ON/OFF スイッチを押して、電源を入れる。
前回リモートコントローラーの電源を切る際に選択されていた番号の CAMERA ボタンが点灯します。
(お買い上げ後、初めて電源を入れたときは 1 ボタンが点灯します。)
- 3 その他の周辺機器の電源を入れる。

ご注意

- ・ カメラの電源は、リモートコントローラーの電源より先に入れてください。カメラの電源を後で入れると、リモートコントローラーで接続を認識できないことがあります。
- ・ カメラの電源を入れたのちに 2 分以上待って、リモートコントローラーの電源を入れてください。接続の認識ができない場合があります。また、本機はリモートコントローラーからの電源の入切はできません。

複数のカメラを操作する

操作の前に、接続したカメラにアドレスを割り当てます。いったんアドレスを割り当てれば、CAMERA ボタンを押すだけで、操作するカメラを切り替えることができます。

カメラアドレスを自動的に割り当てるには

- 1 すべてのカメラとリモートコントローラーの電源を入れる。

ご注意

カメラの電源を入れたのちに2分以上待つて、リモートコントローラーの電源を入れてください。接続の認識ができない場合があります。

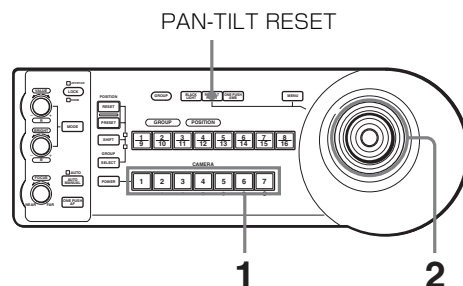
- 2 リモートコントローラーの RESET ボタンを押しながら POWER ボタンを押す。
カメラの接続が認識され、接続されている順番に各カメラに1～7のカメラアドレスが自動的に割り当てられます。
- 3 リモートコントローラーの POWER ボタンを押して、CAMERA ボタンが点灯することを確認する。
カメラアドレスが割り当てられたカメラの数だけ CAMERA ボタンが点灯します。
これで CAMERA ボタンを押すだけで、カメラを切り替えることができます。

ご注意

本機とリモートコントローラーの接続は RS-422 での接続しかできません。
そのため、コントロールできるカメラの接続は7台までとなります。

パン・チルト・ズームを操作する

パン・チルトする

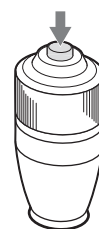


- 1 CAMERA ボタンを押して、操作したいカメラを選ぶ。
- 2 ジョイスティックを使ってパン・チルトする。
画面を見ながら、見たい方向にジョイスティックを倒します。
ジョイスティックを倒す角度によって、パン・チルトの速度が変わります。
手を離すと、動作が停止します。

カメラの向きを正面に戻すには

ジョイスティック上部のボタンを1～2秒押します。

1～2秒押す



カメラヘッド部の向きを手で動かしてしまったら

PAN-TILT RESET ボタンを押してパン・チルト位置をリセットします。

カメラの動きとジョイスティックを倒す方向が違うときは

通常、ジョイスティックを右へ倒すとカメラは右方向に動くよう設定されています。画面を見ながらカメラの向きを変えるときなど、カメラの動きを左右逆にしたい場合は、リモートコントローラーのL/R DIRECTION 切替スイッチを使用し、ジョイスティックのパン方向の操作を反対にすることができます。

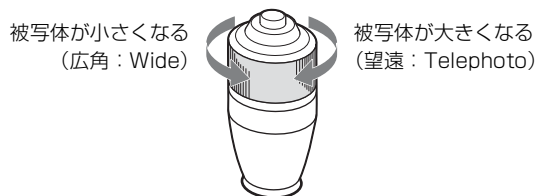
詳しくはリモートコントローラーの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

この設定はリモートコントローラーからの出力信号を変えているだけで、カメラ本体の設定を変えているのではありません。

ズームする

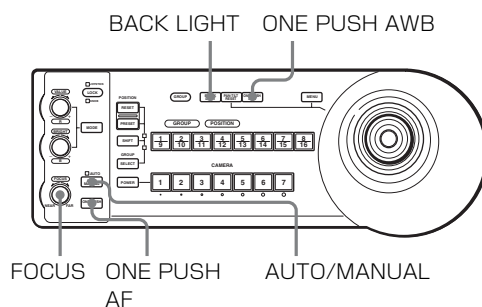
ジョイスティック上部のダイヤルを左右に回します。



ご注意

望遠にした状態でパン・チルト動作をすると、画面上、動作速度が一定でないように見えることがあります。

カメラを調節する



ピントを合わせる

自動でピントを調節するには

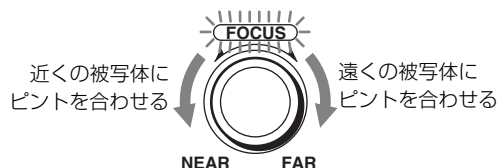
AUTO/MANUAL ボタンを押して、AUTO インジケータを点灯させます。

自動的に画面中央部の被写体にピントが合います。



手動でピントを調節するには

AUTO/MANUAL ボタンを押して AUTO インジケータを消してから、FOCUS つまみを左右に回して調節します。



手動調整中にワンタッチでピントを自動調節するには

ONE PUSH AF ボタンを押します。自動的に画面中央部の被写体にピントが合います。



逆光を補正する

被写体の背後に光源があり、被写体が暗く映る場合など BACK LIGHT ボタンを押します。

解除するには、もう一度 BACK LIGHT ボタンを押します。

BACK
LIGHT

ご注意

BACK LIGHT ボタンは、EXPOSURE メニューの MODE を FULL AUTO に設定した場合にのみ有効となります。

ホワイトバランスを調節する

被写体と同じ照明条件のところに白いものを置き、ズームアップなどをして画面いっぱいに白い被写体を撮像します（白壁などでも代用できます）。

この白を使って、ホワイトバランスを調節します。

自動でホワイトバランスを調節するには

- 1 WHITE BALANCE メニューの MODE を ONE PUSH に設定する。

設定のしかたは「WHITE BALANCE メニュー」（55 ページ）をご覧ください。

- 2 ONE PUSH AWB ボタンを押す。
自動的にホワイトバランスを調節します。

ONE PUSH
AWB

カメラの状態を記憶させる—プリセット機能

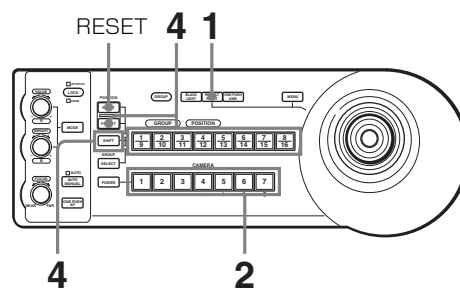
リモートコントローラーを使って、カメラの向きや、ズーム、ピント調節、逆光補正の入／切などを 16 種類（16 ポジション）までカメラ内部のメモリーに記憶させることができます。

記憶できる設定項目については、「プリセット項目」（63 ページ）をご覧ください。

ご注意

リモートコントローラーから記憶、呼出し、消去ができるのは POSITION 1～16（プリセット 1～16）のみになります。POSITION 1～16 以外は、ネットワーク経由での操作で設定等を行ってください。

カメラの状態を記憶させる



- 1 PAN-TILT RESET ボタンを押してパン・チルト位置をリセットする。
- 2 CAMERA ボタンを押してカメラを選択する。

ご注意

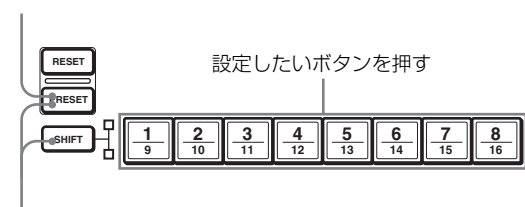
本機とリモートコントローラーの接続は RS-422 での接続しかできません。

そのため、コントロールできるカメラの接続は 7 台までとなります。

- 3 カメラの向き、ズーム、ピント、逆光補正などを調節する。（48、49、50 ページ参照）

- 4** PRESET ボタンを押しながら、GROUP/POSITION ボタン (POSITION 1～8)、または SHIFT ボタンと GROUP/POSITION ボタン (POSITION 9～16) を押す。

押しながら (POSITION 1～8)



押しながら (POSITION 9～16)

カメラの状態がカメラ内部のメモリーに記憶されます。
記憶中は押したボタンが点滅します。記憶が完了すると点滅が止まります。

- ・カメラの向きや、ズーム、ピント調節等のカメラ設定を記憶させる際には、本機を使用する場所に適切に設置、固定してから行ってください。設定後に設置方法を変更すると、設定に差異が生じる場合があります。
- ・ネットワーク経由での操作でも、POSITION 1～16までの設定、記憶ができます。また、ネットワーク経由の操作からでも記憶を消すことができます。
- ・記憶することができる設定項目、記憶を消すことのできる設定項目については、「プリセット項目」(63 ページ)をご覧ください。

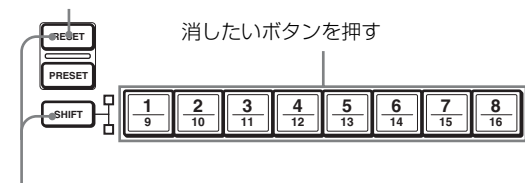
記憶させた状態を呼び出すには

GROUP/POSITION ボタンの中から1つ選んで押します。POSITION 9～16 を呼び出す場合は、SHIFT ボタンを押しながら呼び出したい GROUP/POSITION ボタンを押します。

記憶を消すには

RESET ボタンを押しながら、GROUP/POSITION ボタン (POSITION 1～8)、または SHIFT ボタンと GROUP/POSITION ボタン (POSITION 9～16) を押します。

押しながら (POSITION 1～8)



押しながら (POSITION 9～16)

記憶消去中は押したボタンが点滅します。消去が完了すると点滅が止まります。

ご注意

- ・電源を入れたときは、POSITION 1 に記憶された設定内容で起動します。
- ・電源を一度切ってから再度入れたときに、電源を切る前のカメラの状態やパン・チルト位置を反映させたいときは、POSITION 1 に設定を記憶させてください。
- ・POSITION への記憶設定中または記憶消去中は、他の POSITION の記憶呼び出し、設定、消去はできません。

リモートコントローラーを使って の設定

メニュー画面の見かた

この章では、SDI 出力に接続された外部モニターの画面に表示されるメニューを見ながら撮影の条件やシステムセットアップなどの設定について説明します。

リモートコントローラーを使ってパン、チルト、ズームなどを操作する場合は、「リモートコントローラーを使つての操作」(47 ページ)をご覧ください。
ネットワーク経由で設定する場合は、「ネットワーク経由での設定」(19 ページ)をご覧ください。

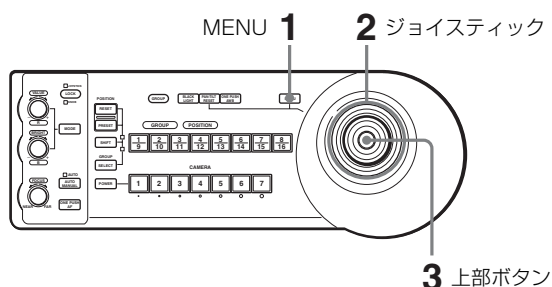
実際の操作を始める前にメニュー画面の見かたを説明します。

メニュー画面全体の構成については、「メニューの構成」(61 ページ)をご覧ください。

ご注意

メニュー表示中は、パン・チルト操作はできません。
また、このメニュー表示は SDI 出力にのみ表示されます。

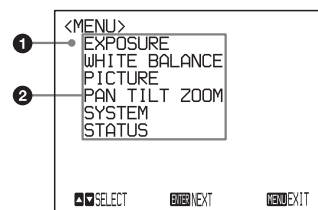
リモートコントローラーを使って操作する



- 1 リモートコントローラーのMENU ボタンを約1秒長押しする。
メインメニューが表示されます。
- 2 ジョイスティックで設定メニューを選択する。
- 3 上部のボタンを押して決定する。

メインメニュー

リモートコントローラー の MENU ボタンを約 1 秒長押しする。メインメニューが表示されます。



① 選択表示

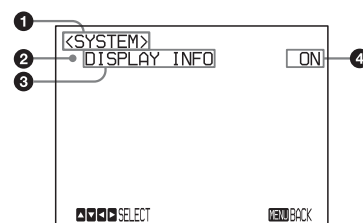
設定メニューを選択します。
現在選択されている項目は、カーソルで表示されます。リモートコントローラーのジョイスティックを上下に倒すと、カーソルが上下に動きます。

② メニュー項目

リモートコントローラーのジョイスティックで設定メニューを選択し、上部のボタンを押すと、選んだ設定メニューが表示されます。

設定メニュー

メインメニューで選択した設定メニューが表示されます。



① 設定メニュー

現在選択されているメニュー名が表示されます。

② 選択表示

設定項目を選択します。
現在選択されている項目は、カーソルで表示されます。リモートコントローラーのジョイスティックを上下に倒すと、カーソルが上下に動きます。

③ 設定項目

この設定メニューで選択できる設定項目が表示されます。

④ 設定値

現在設定されている設定値が表示されます。
リモートコントローラーのジョイスティックで左右に倒して設定を変更します。

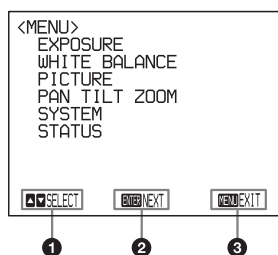
各設定項目の初期設定値については、「メニューの構成」(61 ページ)をご覧ください。

メニューを消すには

メインメニューが表示されているときは、MENU ボタンを 1 回押します。サブメニューが表示されているときは、MENU ボタンを 2 回押します。

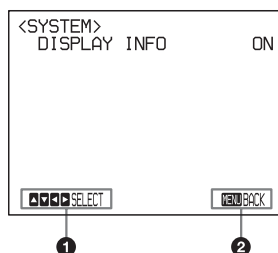
操作ボタン表示部

メインメニュー



- ① リモートコントローラーのジョイスティックの上下操作で項目を選ぶことができることを示しています。選択されている項目はカーソルで表示されます。
- ② リモートコントローラーのジョイスティック上部のボタンを押すと、次の階層へ移動することを示しています。
- ③ リモートコントローラーの MENU ボタンを押すと、メインメニューから抜けて通常画面に戻ることを示しています。

設定画面

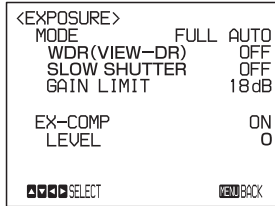


EXPOSURE メニュー

露出調整のメニューです。

Web ブラウザからも設定が出来ます。

「露出」(23 ページ) をご覧ください。



MODE (モード)

FULL AUTO (フルオート)：感度、電子シャッター、絞りをすべて使用して、露出を自動調整します。

BRIGHT (ブライト)：ブライトレベル (LEVEL) を調整します。

SHUTTER PRI (シャッター優先)：感度と絞りを使用して露出を自動調整します。電子シャッター (SPEED) は手動調整します。

IRIS PRI (アイリス優先)：感度と電子シャッターを使用して露出を自動調整します。絞り (IRIS) は手動調整します。

MANUAL (手動)：感度 (GAIN)、電子シャッター (SPEED)、絞り (IRIS) をそれぞれ手動調整します。

上記のモードを選択すると、下記の設定項目のうち、選択したモードで設定可能な項目が新たに表示されます。

GAIN (ゲイン)：感度を選択します。

0、3、6、9、12、15、18、21、24、27、30、33、36、39、43 dB から選択できます。

SPEED (シャッタースピード)：電子シャッターのシャッタースピードを選択します。

信号フォーマットが 59.94/29.97 のとき

1/1、1/2、1/4、1/8、1/15、1/30、1/60、1/90、1/100、1/125、1/180、1/250、1/350、1/500、1/725、1/1000、1/1500、1/2000、1/3000、1/4000、1/6000、1/10000 から選択できます。

信号フォーマットが 50/25 のとき

1/1、1/2、1/3、1/6、1/12、1/25、1/50、1/75、1/100、1/120、1/150、1/215、1/300、1/425、1/600、1/1000、1/1250、1/1750、1/2500、1/3500、1/6000、1/10000 から選択できます。

IRIS (アイリス)：絞りを選択します。

CLOSE、F14、F11、F9.6、F8.0、F6.8、F5.6、F4.8、F4.0、F3.4、F2.8、F2.4、F2.0、F1.6 から選択できます。

LEVEL (レベル)：ブライトネスレベルを選択します。0、5～31 から選択できます。

WDR(View-DR)：MODE が FULL AUTO のとき、同一撮影シーン内の暗い部分と明るい部分を判別し、暗い部分を明るくし、かつ、明るい部分の白とびも抑えます。

OFF、LOW、MID、HIGH から選択できます。

ご注意

- ・ WDR(VIEW-DR) は FULL AUTO 時のみ設定が可能です。
- ・ WDR(VIEW-DR) が OFF 以外の設定時には MODE の設定は FULL AUTO で固定になります。
- ・ WDR(VIEW-DR) 切り替え時に画面の輝度変化が一瞬発生します。
- ・ 露光の変化が大きい場合に、画面が一瞬停止することがあります。

GAIN LIMIT (ゲインリミット)：FULL AUTO、

SHUTTER PRI、IRIS PRI のときに、感度アップの上限値を設定します。9、12、15、18、21、24、27、30、33、36、39、43 dB から選択できます。

EX-COMP (露出補正)

MODE が FULL AUTO、SHUTTER PRI、IRIS PRI のとき ON にすると、露出補正ができます。EX-COMP を ON にすると LEVEL が表示されます。

-7、-6、-5、-4、-3、-2、-1、0、+1、+2、+3、+4、+5、+6、+7 から選択できます。

0 は露出補正されません。+7 は最も明るく、-7 は最も暗く設定されます。

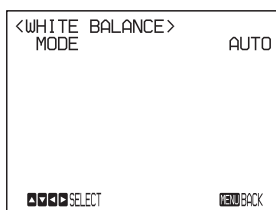
OFF は露出補正機能が働きません。

SLOW SHUTTER (自動スローシャッター)

「ON」に設定すると、被写体照度が下がったときに自動でスローシャッターに入るように制御します。AE モードが FULL AUTO のときのみ有効です。

WHITE BALANCE メニュー

ホワイトバランスの調整メニューです。
Web ブラウザからも設定が出来ます。
「ホワイトバランス」(24 ページ) をご覧ください。



MODE (モード)

ホワイトバランスモードを選択します。
AUTO (自動)、IN DOOR (屋内)、OUT DOOR (屋外)、
ONE PUSH (ワンプッシュ)、ATW、MANUAL (手動)
から選択できます。
MANUAL を選択すると、R.GAIN (R ゲイン)、B.GAIN
(B ゲイン) が表示されます。それぞれ、0 ~ 255 の範囲
で選択できます。

ONE PUSH を選択したときは

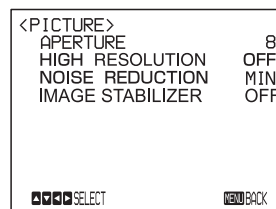
次の操作をしてください。

- 1 画面中央に大きく白い被写体を写す。
- 2 リモートコントローラーの ONE PUSH AWB ボタン
を押す。
ホワイトバランス調整が実行されます。

SYSTEM メニューで DISPLAY INFO (57 ページ参照)
を ON に設定しておくと、ホワイトバランスの調整結果
が SDI 出力に接続されたモニターに表示されます。

PICTURE メニュー

画質調整用のメニューです。
Web ブラウザからも設定が出来ます。
「画像」(25 ページ) または「設置タブ」(21 ページ) を
ご覧ください。



APERTURE (輪郭補正)

輪郭補正レベルを選択します。
MIN、1 ~ 14、MAX から選択できます。

HIGH RESOLUTION (高解像度モード)

HIGH RESO (高解像度モード) の ON/OFF を選択でき
ます。ON に設定すると、エッジを強調し、より解像感の
ある映像が得られます。

ご注意

オン時にはオフ時よりもノイズの多い映像となります。

NOISE REDUCTION (ノイズリダクション)

ノイズ (固定パターンノイズ、ランダムノイズなど) を除
去して、より鮮明な映像を得るための機能です。
OFF(MIN) の状態を含めて、レベル 1 からレベル 5(MAX)
まで 6 段階あります。

IMAGE STABILIZER (画像ブレ補正)

撮影状況に合わせて、画像ブレ補正の効果を選択でき
ます。

OFF : 画像ブレ補正機能は働きません。

ON : 画像ブレ補正機能が働きます。

イメージスタビライザー機能を ON にすると、振動など
で起こる画面ブレに対して、ブレの少ない映像を得られ
ます。10 Hz 前後の振動周波数で補正効果があります。イ
メージスタビライザー機能は、デジタルズーム方式を採
用しており、画角や解像度に変化が現れますが、感度は
保持されます。

ご注意

- ・ 画像ブレ補正機能は、カメラのパン、チルト動作中は機
能しません。また、パン、チルト動作停止後、画像が安
定するまで時間がかかる場合があります。

- ・画像ブレ補正機能を有効にした場合、カメラの電源を入れてから画像が安定するまで時間がかかることがあります。
- ・設置条件によっては十分に画像ブレ補正効果が表れない場合があります。
- ・画像ブレ機能を有効にした場合は、被写体が大きくなる方向にシフトします。
- ・高周波の振動成分がある環境下では、イメージスタビライザー機能が正しく働かない場合があります。そのような環境下で使用する場合には、イメージスタビライザー機能を OFF にしてご使用ください。

PAN TILT ZOOM メニュー

パン・チルト・ズーム用のメニューです。

Web ブラウザからも設定が出来ます。

「PTZF 操作タブ」(42 ページ) をご覧ください。

<PAN TILT ZOOM>	
PAN/TILT LIMIT	OFF
RIGHT	+170°
LEFT	-170°
UP	+090°
DOWN	-020°
PAN/TILT SLOW	OFF
D-ZOOM	ON
SELECT BACK	

PAN/TILT LIMIT (パンチルト制限)

PAN/TILT LIMIT を ON にするとパン・チルト範囲の制限ができます。以下の設定値を選択できます。

RIGHT (右) : - 169° ~ + 170° まで、1° ごとに選択可能。

LEFT (左) : - 170° ~ + 169° まで、1° ごとに選択可能。

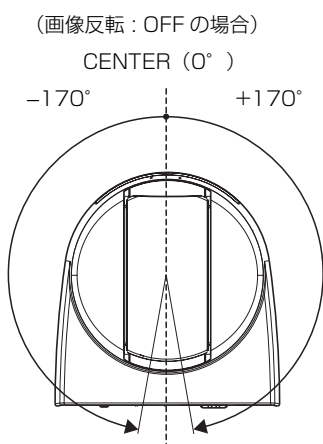
UP (上) : - 19° ~ + 90° (画像反転 : OFF)
- 89° ~ + 20° (画像反転 : ON)
まで、1° ごとに選択可能。

DOWN (下) : - 20° ~ + 89° (画像反転 : OFF)
- 90° ~ + 19° (画像反転 : ON)
まで、1° ごとに選択可能。

ご注意

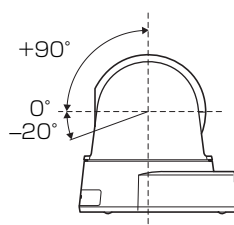
- ・設定値の表示は、操作後に更新されます。パン・チルト駆動中は表示が変わりません。
- ・PAN/TILT LIMIT (パンチルト制限) は、設定後すぐに反映されます。
- ・OFF にすると工場出荷時の設定に戻ります。
- ・電源を 1 度切ってから再度入れた時には、最後に設定した状態が反映されます。
- ・画像反転のオン／オフ切り替えを行うと、工場出荷時の設定に戻ります。設置状況時応じて、画像反転のオン／オフ設定を行ってから、設定してください。

LEFT/RIGHT の設定範囲

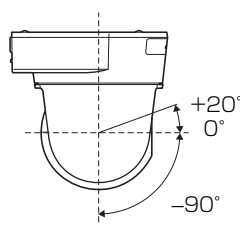


UP/DOWN の設定範囲

(画像反転 : OFF の場合)



(画像反転 : ON の場合)



ご注意

カメラを下方向へ 20 度下げた状態で、カメラを左右 100 度以上回転させた場合、レンズのズーム位置によってはカメラ本体が映り込むことがあります。

PAN/TILT SLOW (低速度モード)

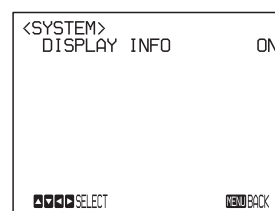
この機能を ON にすると、PAN/TILT 動作が低速になり、動きの遅い被写体を撮影し易くなります。

D-ZOOM (デジタルズーム)

デジタルズームの ON/OFF を選択できます。OFF 時は、デジタルズームは動作せず、光学ズームのみの動作になります。ON 時は光学ズームが MAX になった後にデジタルズームモードになります。最大 360 倍*のズームができます。

* SRG-201SE は、最大 240 倍です。

SYSTEM メニュー



DISPLAY INFO

ON にすると、リモートコントローラーで下記の操作を行ったときに、SDI OUT 端子に接続した外部モニターの画面にメッセージが約 3 秒間表示されます。

メッセージ	リモートコントローラーでの操作
PRESET n OK n はプリセットのポジション番号	POSITION 1 ~ 16 にカメラの状態を記憶させたとき。
RECALL n OK n はプリセットのポジション番号	POSITION 1 ~ 16 に記憶した設定値を読み出したとき。
RESET n OK n はプリセットのポジション番号	POSITION 1 ~ 16 に記憶した値をリセットしたとき。
ONE PUSH WB : OP	ワンプッシュオートホワイトバランスが実行されているときに点滅で表示。
ONE PUSH WB : OK	ワンプッシュオートホワイトバランスが正常に終了したときに点灯表示。
ONE PUSH WB : NG	ワンプッシュオートホワイトバランスが失敗したときに点滅で表示。

ご注意

ネットワーク経由からの操作の場合は、表示されません。

STATUS メニュー

メニューで設定した内容を一覧表示します。

<STATUS>		PAGE1
EXPOSURE	FULL	AUTO
WDR(VIEW-DR)		OFF
SLOW SHUTTER		OFF
GAIN LIMIT		18 dB
EX-COMP	OFF	0
PAGE		BACK

STATUS メニューは PAGE1 ～ PAGE4 まであります。
これらは内容を確認するためのもので、設定内容を変更することはできません。

PAGE1 : EXPOSURE メニューの各項目

PAGE2 : WHITE BALANCE モード、PICTURE メニューの各項目

PAGE3 : PAN TILT ZOOM メニューの各項目

PAGE4 : SYSTEM メニューの項目、オーディオ入力、VIDEO のモード、VISCA RS-422 端子の通信速度設定の各項目

ご注意

オーディオ入力、VIDEO のモード、VISCA RS-422 端子の通信速度設定は、リモートコントローラーを使つての設定（SDI 出力に表示されるメニューからの設定）ではできません。
「ネットワーク経由での設定」（19 ページ）をご覧ください。

メッセージ一覧

本機に表示されるメッセージは、以下のとおりです。必要に応じて次に示す処置を行ってください。

POWER インジケータ点灯

NETWORK インジケータ	カメラの状態
緑点灯	正常動作中
消灯	ネットワーク未接続

POWER インジケータ点滅

NETWORK インジケータ	カメラの状態
緑点灯→黄点灯→橙点灯 の繰り返し	ソフトウェアのバージョンアップ中
緑点灯→黄点灯→消灯→緑点灯→橙点灯→消灯の繰り返し	初期化中

POWER インジケータ消灯

NETWORK インジケータ	カメラの状態
消灯	電源が供給されていない
緑点灯	起動中
橙点灯	初期化の準備中

画面表示

「SYSTEM メニュー」（57 ページ）の DISPLAY INFO 設定が ON の状態で、リモートコントローラーから下記の操作を行った場合に、SDI 出力に接続された外部モニターのみ表示されます。

メッセージ	意味と対策
PRESET n OK (n はプリセットのポジション番号 1 ～ 16)	POSITION 1 ～ 16 にカメラの状態を記憶させたときに約 3 秒間表示されます。
RECALL n OK (n はプリセットのポジション番号 1 ～ 16)	POSITION 1 ～ 16 に記憶させた設定値を読み出したときに約 3 秒間表示されます。
RESET n OK (n はリセットのポジション番号 1 ～ 16)	POSITION 1 ～ 16 に記憶させた値をリセットしたときに約 3 秒間表示されます。
ONE PUSH WB:OP	ワンプッシュオートホワイトバランスが実行されているときに点滅表示されます。
ONE PUSH WB:OK	ワンプッシュオートホワイトバランスが正常に終了したときに点灯表示されます。
ONE PUSH WB:NG	ワンプッシュオートホワイトバランスが失敗したときに点滅表示されます。露光状態や被写体を確認し、再度ワンプッシュオートホワイトバランスを実行してください。

故障かな？と思ったら

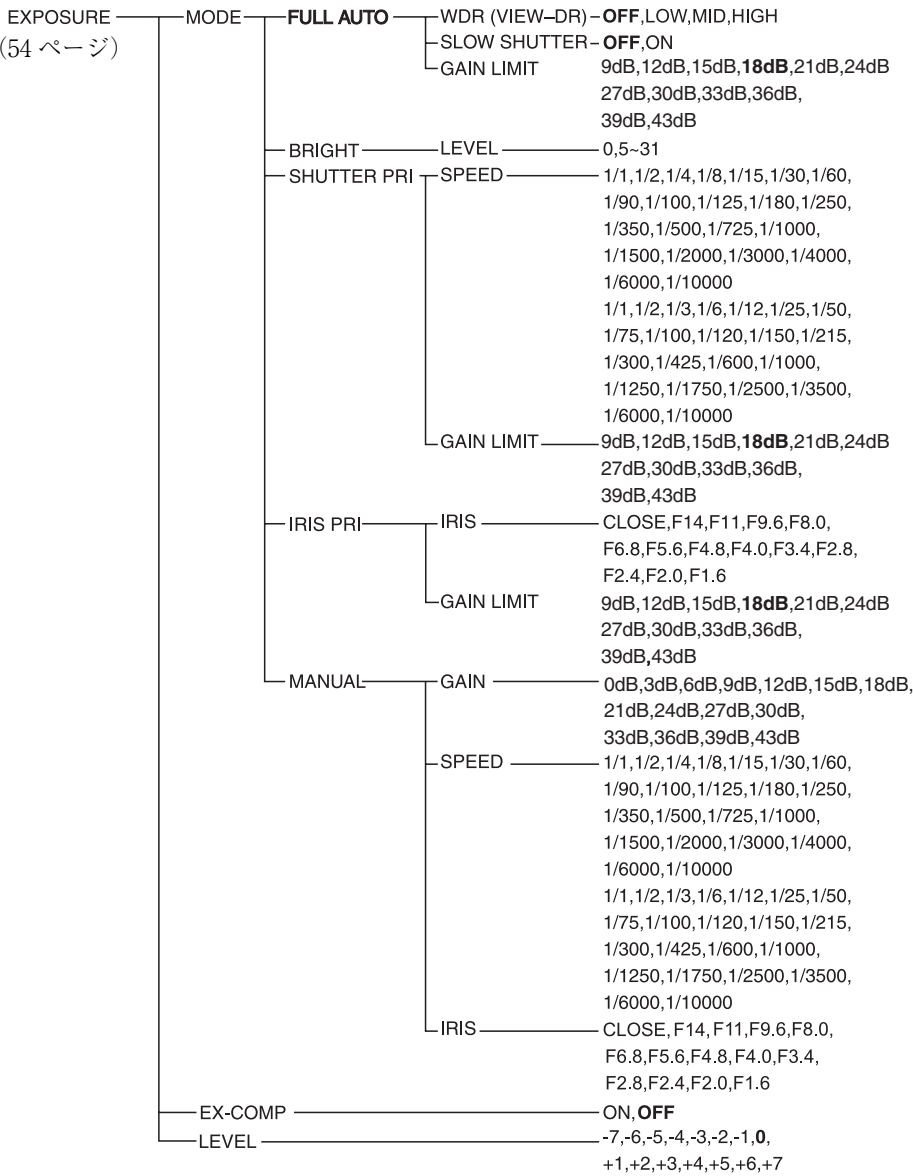
故障とお考えになる前に下記の項目をもう一度チェックしてみてください。それでも具合の悪いときは、ソニーのサービス窓口にご相談ください。

症状	原因	処置
電源が入らない。	AC 電源アダプターが DC 12 V 端子にしっかり接続されていない。	奥までしっかり差し込んでください。
	電源コードが AC 電源アダプターや電源コンセントにしっかり接続されていない。	奥までしっかり差し込んでください。
SDI 出力を接続したビデオモニターに画像が出ない。	映像接続ケーブルが正しく接続されていない。	本機とビデオモニターの接続を確認してください。
	カメラの露出が正しく設定されていない。	EXPOSURE メニューで露出の設定を確認してください (54 ページ)。
	SDI 出力ビデオフォーマットが正しく設定されていない。	本機の出力ビデオフォーマットと外部ビデオモニターの入力ビデオフォーマットを確認してください。
パン・チルト・ズームが動作しない。	接続された外部ビデオモニター上にメニューが表示されている。	メニューを消してください。
	パン・チルト範囲が制限されている。	PAN TILT ZOOM メニューの PAN/TILT LIMIT の設定を変更してください (43 または 56 ページ)。
EXPOSURE メニューで FULL AUTO 以外に設定できない。	WDR(View-DR) が OFF になっていない。	OFF に設定後に EXPOSURE の MODE 選択をしてください (24 または 54 ページ)。
コンピューターに接続しても VISCA 通信ができない。	コンピューターが正しく接続されていない。	本機とコンピューターの接続を確認してください。
		シリアル通信設定のボーレート (9,600 bps または 38,400 bps) が正しく設定されているか確認してください。
POWER および NETWORK インジケーターが点灯しない	—	付属品以外の AC アダプターを使用していないか確認してください。
		延長コードやテーブルタップを使用しないで接続してください。
		他のコンセント差し込み口に差し替えてください。
カメラ画像が表示されない	—	コンセントを抜いて 10 秒後に、もう一度電源を入れ直してください。
		上記の操作を行っても画像が表示されない場合は、本機を初期化してください。 初期化については、「初期化タブ」をご覧ください (22 ページ)。
有線ネットワークに接続できない	—	ネットワークケーブルがカメラ、ルーター、コンピューターそれぞれに正しく接続されていることを確認してください。
		ご使用になるルーターの設定を DHCP 有効にしてください。
		ネットワークケーブルが断線している可能性があるので、交換してください。
どうしても動作しない。	—	電源コードのプラグをコンセントから抜き、しばらくしてからもう一度つないでみてください。

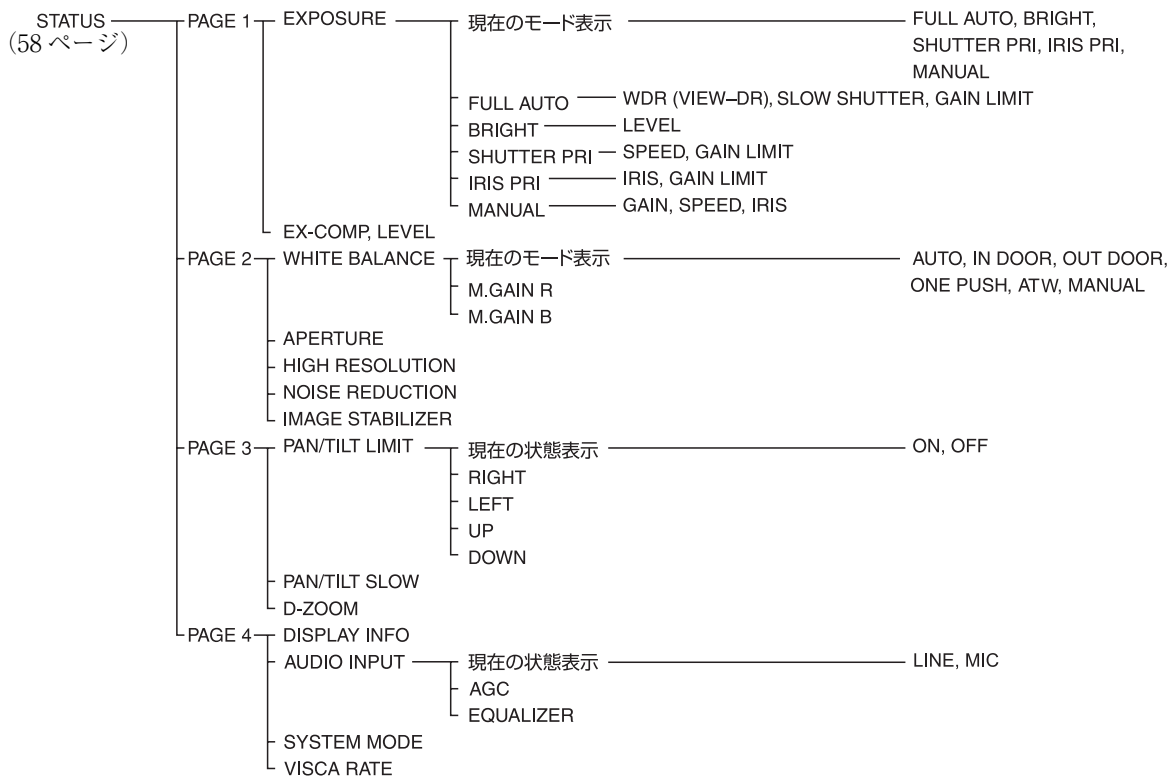
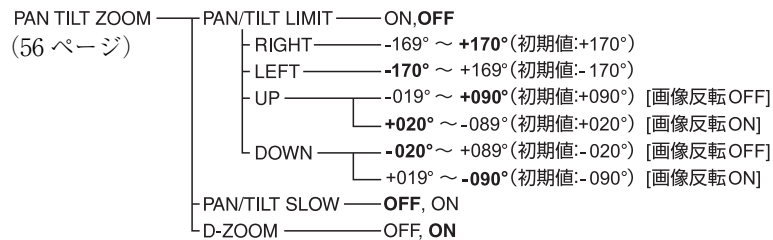
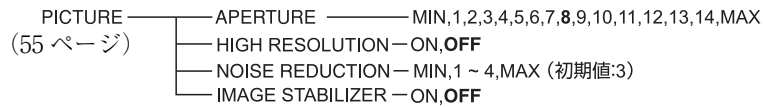
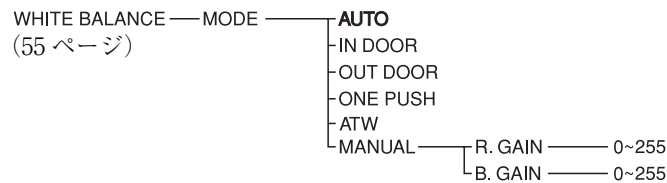
メニューの構成

本機の SDI 出力に接続された外部モニターに表示されるメニューは次のように構成されています。詳しい内容は、() 内のページをご覧ください。

各項目の初期設定値は、太字で示しています。



その他



プリセット項目

カメラ内部のメモリーには、次の設定項目が記憶されます。

プリセットできる項目

プリセットで記憶する項目	プリセットポジション番号	
	1 ～ 16	17 ～ 256*
パン・チルト位置	○	○
ズーム位置	○	○
フォーカス 自動／手動	○	×
フォーカスの位置	○	○
逆光補正 オン／オフ	○	×
露出モード	○	×
WDR(View-DR)	○	×
自動スローシャッター	○	×
ブライトレベル	○	×
シャッタースピード	○	×
アイリス	○	×
ゲイン	○	×
露出補正	○	×
露出補正值	○	×
ホワイトバランスモード	○	×
輪郭補正值	○	×
デジタルズーム オン／オフ	○	×
デイ／ナイト ICR の状態	○	×

* 17 ～ 256 はネットワーク経由でのみ記憶可能です。

- 電源を入れ直しても設定が保持される項目
- × 電源を入れ直すと設定が保持されない項目

操作時に記憶する項目

- ・ ゲインリミット値
- ・ 高解像度モード
- ・ ノイズリダクション
- ・ デイ／ナイト ICR 機能のモード
- ・ 画像ブレ補正
- ・ パンチルト制限
- ・ パンチルト 低速度モード
- ・ DISPLAY INFO

◎上記の記載項目のほか、ネットワーク経由で各タブ内で設定された項目は有効とした時点で設定が保持されます。

◎記憶、保持された項目は電源を入れ直しても設定は保持されています。

◎電源を入れると、プリセットポジション 1 に記憶した設定内容と操作時に記憶した設定内容で起動します。

用語集

キャプチャー

映像機器から映像や音声をデジタルデータに変換してコンピュータの中に取り込むこと。

コーデック (Codec)

映像や音声データを圧縮・伸張するソフトウェアおよびハードウェアのこと。

コントラスト

映像の黒い部分から白い部分までの階調のこと。

サブネットマスク

ネットワークを識別するため、IP アドレスのうち、上位の何ビットをネットワークアドレスに使用するかを定める 32 ビットの数値。

鮮鋭度

隣り合った 2 つの部分の境界がどの程度明瞭に区別できるかの度合い。

セカンダリー DNS サーバー

DNS サーバーの一種で、プライマリ DNS サーバーが利用できないときに処理を肩代わりするサーバー。

帯域制限

転送されるデータ量を制限すること。

デジタル証明書

暗号を解除するための公開鍵の発行元が真正であることを証明するために、認証局が発行する電子証明書。

デフォルトゲートウェイ

所属するネットワークから他のネットワークへアクセスするときに経由する機器。

ネットワークアドレス

IP アドレスのうち、ローカルのネットワーク（サブネット）を識別するのに使われる部分。

ネットワーク帯域

ネットワークを利用できる接続速度。

ビットレート

単位時間あたりのデータ量。

プライマリ DNS サーバー

DNS サーバーの一種で、各機器や他の DNS サーバーからの問い合わせを優先的に処理するサーバー。

フレームレート

1 秒間あたりの動画像フレーム数。

プロキシサーバー

内部のネットワークとインターネットの間にあって、直接インターネットに接続できない内部のネットワークのコンピュータに代わって、インターネットへの接続を行なう機器またはソフトウェア。

マルチキャスト

224.0.0.0 から 239.255.255.255 の範囲で割り当てられるクラス D の IP アドレスで、このアドレスを使用することによって、複数の機器に対して同じデータを送信することができる。

ユニキャスト

ネットワーク内で単一のアドレスを指定して特定の機器にデータを送信すること。

3G-SDI

3G-SDI (SMPTE 424M) は、広帯域の伝送を可能にする SDI インターフェース。

3Gbps の伝送容量があるので、1080p/59.94, 1080p/50 信号を対応する BNC ケーブル 1 本で伝送することができる。

ActiveX コントロール

Microsoft 社が開発したソフトウェアの部品化技術。Web ページまたはその他のアプリケーションに挿入できるコンポーネントまたはオブジェクト。

CBR

Constant Bit Rate control の略。本設定を選択すると、カメラはできるだけビットレートを一定に保つように動作を行う。

DHCP サーバー

Dynamic Host Configuration Protocol Server の略。固定の IP アドレスを持たない端末に自動的に IP アドレスを振り分けるプロトコル (DHCP) を使用して IP アドレスを割り振るサーバー。

DNS サーバー

Domain Name System Server の略。IP ネットワーク上の機器同士が接続する場合、接続相手の IP アドレスが必要であるが、数字の並びである IP アドレスでは相手を想像することが難しいため、相手に名前を付加し（ドメイン名）、それで相手を想像することを容易にするシステムが構築された。これが Domain Name System である。クライアント機器は、ドメイン名を使用して相手機器に接続するとき、DNS サーバーに問い合わせをすることで、相手機器の IP アドレスを取得して接続する。

H.264

映像データの圧縮方式の 1 つで ISO、および ITU-T との共同標準化組織 JVT（Joint Video Team）により標準化された規格。MPEG4 より、さらに高圧縮で映像配信することができる。

HTTP ポート

Web サーバーとクライアント（Web ブラウザなど）がデータを送受信するときに使うポート。

IP アドレス

Internet Protocol Address の略。基本的にインターネットに接続する機器は、独自の IP アドレスが割り当てられている。

JPEG

Joint Photographic Expert Group の略で、ISO（国際標準化機構）と ITU-T によって標準化されている静止画圧縮技術またはその規格のこと。インターネット上でなど、画像ファイルの圧縮方式として広く使用されている。

MAC アドレス

各 LAN カード 1 枚 1 枚に割り当てられている固有の ID 番号。

NTP サーバー

Network Time Protocol Server の略。ネットワーク内で利用される時刻情報を配信するサーバー。

RTCP

Real Time Transport Control Protocol の略。
RTP でデータ転送する際に、受信側の受信品質を送信側に伝えたり、送信側の送信状況やセッションの終了などの情報をやり取りするためのプロトコル。

RTP

Real Time Transport Protocol の略。音声や映像などのデータストリームをリアルタイムに配信するための伝送プロトコル。
データの packets 化の際にシーケンス番号とタイムスタンプ情報をヘッダーに付加する事で、受信側で正しい順番で並び戻す事ができる仕組みを定義している。

RTSP

Real Time Streaming Protocol の略。音声や映像などを IP ネットワークでリアルタイムストリーミング制御する為のプロトコル。
ストリーミングの再生、停止などの制御を行うことができる。

SSL

Secure Sockets Layer の略。インターネット上で、暗号化した情報の通信を行うために、Netscape Communications 社が開発したプロトコル。

TCP

Transmission Control Protocol の略。インターネットで使われる標準プロトコル。インターネットでは他のプロトコルとして UDP も使われるが、UDP は転送速度が速いが信頼性は低く、TCP は信頼性が高いが転送速度は遅いという特徴がある。

UDP

User Datagram Protocol の略。インターネットで使われる標準プロトコル。インターネットでは、他のプロトコルとして TCP も使われるが、TCP は信頼性が高いが転送速度は遅く、UDP は転送速度が速いが信頼性は低いという特徴がある。

VBR

Variable Bit Rate control の略。本設定を選択すると、撮影しているシーンに応じてビットレートが変化するように動作する。

索引

あ

アイリス.....	24
アクセス権.....	32
アクセス制限タブ.....	33
アクセスログタブ.....	23
アライメント.....	27

い

イコライザー設定.....	28
位置.....	27
インフォメーションパネル.....	13

え

映像.....	27
映像 1、映像 2、映像 3.....	25
エリアズーム.....	16

お

オーディオコーデック.....	29
オーディオタブ.....	28
オーディオメニュー.....	28
オートゲインコントロール.....	28
音量.....	14

か

画質設定.....	26
画像.....	25
画像コーデック.....	13, 25
画像サイズ.....	25
画像タブ.....	23
画像反転.....	22
画像表示サイズ.....	13
画像ブレ補正.....	22
カメラアドレス.....	48
カメラコントロールパネル.....	14
カメラ状態を記憶.....	50
管理者.....	32
管理者設定メニュー.....	19
管理者、ユーザー 1～ユーザー 9.....	33

き

逆光補正.....	24, 50
キャプチャー.....	14, 64
共通設定.....	31, 35, 40
近距離フォーカス制限.....	43
近赤外光補正.....	28

く

クライアント証明書.....	40
グリニッジ標準時刻.....	21

け

ゲイン.....	24
ゲインリミット.....	24

言語.....	13
現在時刻.....	20

こ

高解像度モード.....	25
高感度モード.....	24
工場出荷設定.....	22
コーデック.....	64
故障かな？と思ったら.....	60
コントラスト.....	64
コントロールバー.....	15
コントロールパネル.....	16
コンピューターの現在時刻.....	20

さ

サービスタブ.....	23
再起動.....	22
最小、最大.....	26
最大ビットレート制限.....	26
削除.....	42, 44
サブネットマスク.....	64
サムネイル.....	44

し

時間設定.....	21
システム構成.....	6, 7, 8, 9
システムメニュー.....	20
システムログタブ.....	23
自動スローシャッター.....	24
自動的に夏時間の調整をする.....	21
シャッタースピード.....	24
ジョイスティック.....	48
状態.....	28, 29
情報タブ.....	20
初期化タブ.....	22
シリアルタブ.....	44
シリアル番号.....	20

す

スーパーインポーズタブ.....	26
スーパーインポーズのロゴ削除.....	23
ズーム操作.....	14, 16, 17, 49
スクリーンモード.....	13
ストーリーミングメニュー.....	45

せ

セカンダリー DNS サーバー.....	64
セキュリティメニュー.....	32
設定タブ.....	21
設定.....	13, 19, 28
設定保存.....	22
設定メニュー.....	52
設定呼び出し.....	22
セット.....	42, 44
鮮鋭度.....	64

そ

操作方法.....	14, 16
操作ボタン表示部.....	53
送信.....	28
ソフトウェアバージョン.....	20

た

帯域制限.....	26, 64
タイプ.....	27
タイムゾーン選択.....	21

つ

追加.....	44
通信速度.....	44
通信方式.....	18

て

低速度モード.....	43
デイ／ナイト ICR タブ.....	27
デジタル証明書.....	64
デジタルズーム.....	43
デフォルトゲートウェイ.....	64
デフォルトポリシー.....	34

と

透過.....	27
動画保存の実行／停止.....	14

な

夏時間.....	21
名前の変更.....	44

に

入力選択.....	29
任意文字列.....	27
認証モード.....	33

ね

ネットワークアドレス.....	64
ネットワークアドレス／サブネット.....	34
ネットワーク帯域.....	64
ネットワークタブ.....	29
ネットワークメニュー.....	29

の

ノイズリダクション.....	25
----------------	----

は

背景色.....	27
パスワード.....	33
パスワード確認.....	33
番号.....	42
パンチルト制限.....	43
パン・チルト操作.....	14, 16, 17, 48
パン・チルト・ズーム操作.....	48

ひ

日付／時刻タブ.....	20
--------------	----

日付／時刻フォーマット	21
ビットレート	26, 64
ビットレート制御モード	26
ビデオコーデックタブ	25
ビデオメニュー	23
秘密鍵パスワード	41
ビューアー認証	33
ビューアーモード	32, 33
ビューサイズ	13
ビューパネル	13
ピントを調節	49

ふ

フォーカス操作	14, 16
フォーカスモード	43
プライマリー DNS サーバー	64
プリセット位置タブ	43
プリセット機能	50
プリセット項目	63
プリセットポジションパネル	15, 16
フレームレート	14, 26, 64
プレビュー画面	23, 27, 44
プロキシサーバー	64

へ

ベクトルドラッグ	16
----------------	----

ほ

ポート番号	42
ホスト名	42
ホワイトバランス	24
ホワイトバランスを調節	50

ま

マイク音量	29
マニュアルタイムゾーン	21
マルチキャスト	18, 64
マルチキャスト配信機能	46

め

メインメニュー	13, 52
メッセージ一覧	59
メニュー画面の見かた	52
メニューの構成	61

も

モード	23, 24, 27
文字の色	27
モデル名	20
モニター画面	13

ゆ

有効	28, 34
ユーザー	32
ユーザータブ	33
ユーザー名	33
ユニキャスト	18, 64
ユニキャスト配信設定	45

よ

用語集	64
呼び出し	44

ら

ライブビューアー	13
----------------	----

り

リモートコントローラー	7, 8, 47, 52
輪郭補正	25

れ

例外リスト	42
レベル	24

ろ

露出	23
露出補正	24

数字

3G-SDI	64
802.1X タブ	39
802.1X ネットワーク	40

A

ActiveX viewer	11
ActiveX viewer 操作パネル部	13
ActiveX コントロール	11, 64

C

CA 証明書	41
Cancel ボタン	19
CBR	64

D

DHCP サーバー	64
DNS サーバー	65

E

EAP 方式	40
EXPOSURE メニュー	54

H

H.264	65
H.264 プロファイル	26
HTTP ポート	65

I

I ピクチャ間隔	26
Internet Explorer	12
IP アドレス	65
IPv4 設定	30
IPv4 QoS	31
IPv6 設定	30

J

JPEG	65
------------	----

L

License notice	13
----------------------	----

M

MAC アドレス	65
----------------	----

N

NTP サーバー	65
----------------	----

O

OK ボタン	19
--------------	----

P

PAN TILT ZOOM メニュー	56
PICTURE メニュー	55
Plug-in free viewer	11
Plug-in free viewer コントロールバー	15
PTZ コントロールバー	16
PTZ モード	42
PTZF 操作タブ	42
PTZF 操作メニュー	42

Q

QoS タブ	31
--------------	----

R

Referer チェック	42
Referer チェックタブ	42
RTCP	65
RTP	65
RTSP	65
RTSP 設定	46

S

SDI ビデオフォーマット	21
SSL	65
SSL クライアント認証	37
SSL サーバー認証	35
SSL タブ	34
STATUS メニュー	58
SYSTEM メニュー	57

T

TCP	18, 65
-----------	--------

U

UDP	65
-----------	----

V

VBR	65
VISCA RS-422 端子	44
VISCA インターフェース	31

W

WDR (View-DR)	24
WHITE BALANCE メニュー	55

お問い合わせは

「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>